

150th

HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学は2026年に創基150周年を迎えます。

2027年度 北海道大学 大学院文学院

北海道大学 大学院文学院

2027

Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University



北海道大学
大学院文学院

Graduate School of
Humanities and Human Sciences
Hokkaido University



www.let.hokudai.ac.jp

文学院院长挨拶

「文学院」への誘い

北海道大学大学院文学院には、人文学・人間科学のふたつの専攻に、11講座20研究室が置かれています。いずれも、2年制の修士課程と、3年制の博士後期課程が設けられ、修了に際しては、国際標準の学位である修士と博士の称号が、それぞれ授与されることとなります。

北大文学院の特色は、思想・歴史・文学といった人文学に属する分野と、心理学・行動科学・社会学・地域科学などの人間科学に属する分野とが、同じ屋根の下で有機的に結びつきつつ研究・教育がおこなわれている、という点でしょう。また、学内の研究施設であるスラブ・ユーラシア研究センターとアイヌ・先住民研究センターに、それぞれ講座(研究室)として教育参画を得ている点も、特色の一つに挙げられます。文理融合を含めた学際的な学びの環境が、ここには整えられています。

20の研究室では、約110名の教員のもとで、約390名の大学院生が、最先端の研究を進めています。文学院では、研究室や専攻、あるいは学院の枠を超えての学びが叶うような、柔軟性のあるカリキュラムが提供されています。入学されるみなさんは、学問的に彩り豊かな環境に、この札幌の地で直接触れ、一線の研究者でもある教員から、丁寧できめ細かな研究指導を受けることができるわけです。

大学院教育は、学知を次世代へ継受発展させ社会への還元に努める研究者の養成とともに、大学院で培った論理的思考力や問題解決能力、コミュニケーション能力、言語運用能力等を応用し高度な知的作業を行うことによって、社会のさまざまな場で活躍する人材の養成も求められています。北大文学院では、こうした社会の潮流にも鑑み、修士課程に2専攻共通の必修講義科目を開講し、幅広い研究領域の考え方や方法論を身につける機会も提供しています。

四季折々に美しい表情を見せる広大なキャンパスで過ごす北大文学院での日々。ぜひ、みなさんと一緒に多彩で豊かな学びを深めていくことを、期待しています。



北海道大学大学院文学院院长

谷本 晃久 たにもと あきひさ

CONTENTS

文学院概要

文学院の特徴・履修モデル	03-04
支援制度	05-07
特色ある学際的教育プログラム	08

専攻・講座・研究室紹介

人文学専攻	09-12
哲学宗教学講座 哲学倫理学研究室	13
哲学宗教学講座 宗教学インド哲学研究室	14
歴史学講座 日本史学研究室	15
歴史学講座 東洋史学研究室	16
歴史学講座 西洋史学研究室	17
歴史学講座 考古学研究室	18
文化多様性論講座 文化人類学研究室	19
文化多様性論講座 芸術学研究室	20
文化多様性論講座 博物館学研究室	21
表現文化論講座 欧米文学研究室	22
表現文化論講座 日本古典文化論研究室	23
表現文化論講座 中国文化論研究室	24
表現文化論講座 映像・現代文化論研究室	25
言語科学講座 言語科学研究室	26
スラブ・ユーラシア学講座 スラブ・ユーラシア学研究室	27
アイヌ・先住民学講座 アイヌ・先住民学研究室	28
在校生が語る「エルムの森の日々」 case 1	29-30
人間科学専攻	31-32
心理学講座 心理学研究室	33
行動科学講座 行動科学研究室	34
社会学講座 社会学研究室	35
地域科学講座 地域科学研究室	36
在校生が語る「エルムの森の日々」 case 2	37-38

TOPICS

研究環境	39
関連組織	40

インフォメーション

学生生活	41
入試から入学まで	42
進路・就職	43-44

キャンパスマップ	45
----------	----

★ 文學院の 特徴・履修モデル

文學院は、哲学宗教学、歴史学、文化多様性論、表現文化論、言語科学、スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学の7講座からなる「人文学専攻」と、心理学、行動科学、社会学、地域科学の4講座からなる「人間科学専攻」との2専攻から構成されています。学際的な人文・社会科学諸分野の学修を通して、俯瞰的な視野から人間と社会をめぐる知を身につけることができます。

● 多彩な11講座20研究室からなる2専攻。100名を超える教員が深く柔軟な学びを支えます。

人文学専攻

Division of Humanities

- 多様な分野を網羅しており、人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶことができる人文学専攻。大学院生のみならずの「学びたい」気持ちに柔軟に応えるカリキュラムとなっています。
- 文献資料・史料に向き合うとともに、現場にも足を運ぶことで、地域や社会に役立つ実践的・実用的な研究成果を豊富に生み出しています。
- スラブ・ユーラシア学、アイヌ・先住民学など、北海道の地域的な特性を活かした「ここでしかできない学び」があります。

哲学宗教学講座

- 哲学倫理学研究室
- 宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

- 日本史学研究室
- 西洋史学研究室
- 東洋史学研究室
- 考古学研究室

文化多様性論講座

- 文化人類学研究室
- 博物館学研究室
- 芸術学研究室

表現文化論講座

- 欧米文学研究室
- 中国文化論研究室
- 日本古典文化論研究室
- 映像・現代文化論研究室

言語科学講座

- 言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

- スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

- アイヌ・先住民学研究室

詳細は [p.09](#)

人間科学専攻

Division of Human Sciences

- 人間と社会に関する総合的な学修ができます。
- 大型研究プロジェクトの実績を活かした世界レベルの研究に基づく高度で実証的な学びができます。
- 実験、実習、フィールドワーク等、多彩な研究手法が学べます。
- 科学的アプローチに基づく人間科学研究の国際的拠点を活かした学びができます。

心理学講座

- 心理学研究室

行動科学講座

- 行動科学研究室

社会学講座

- 社会学研究室

地域科学講座

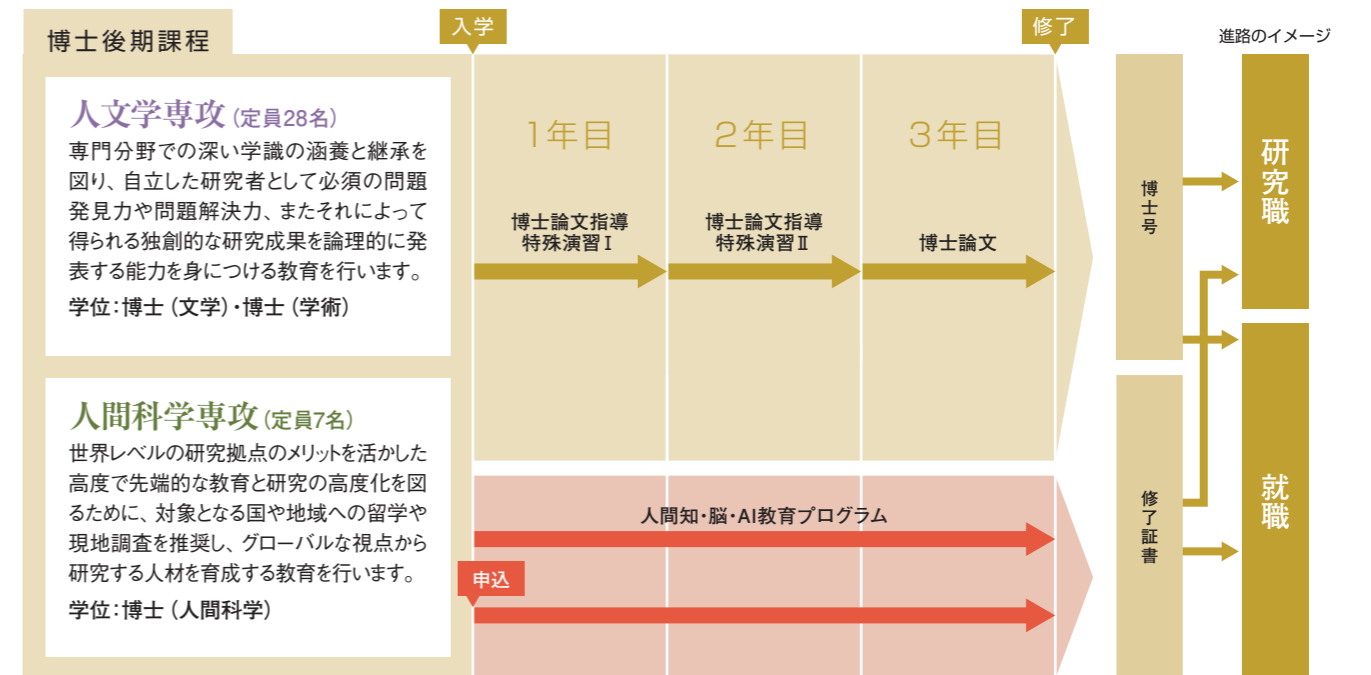
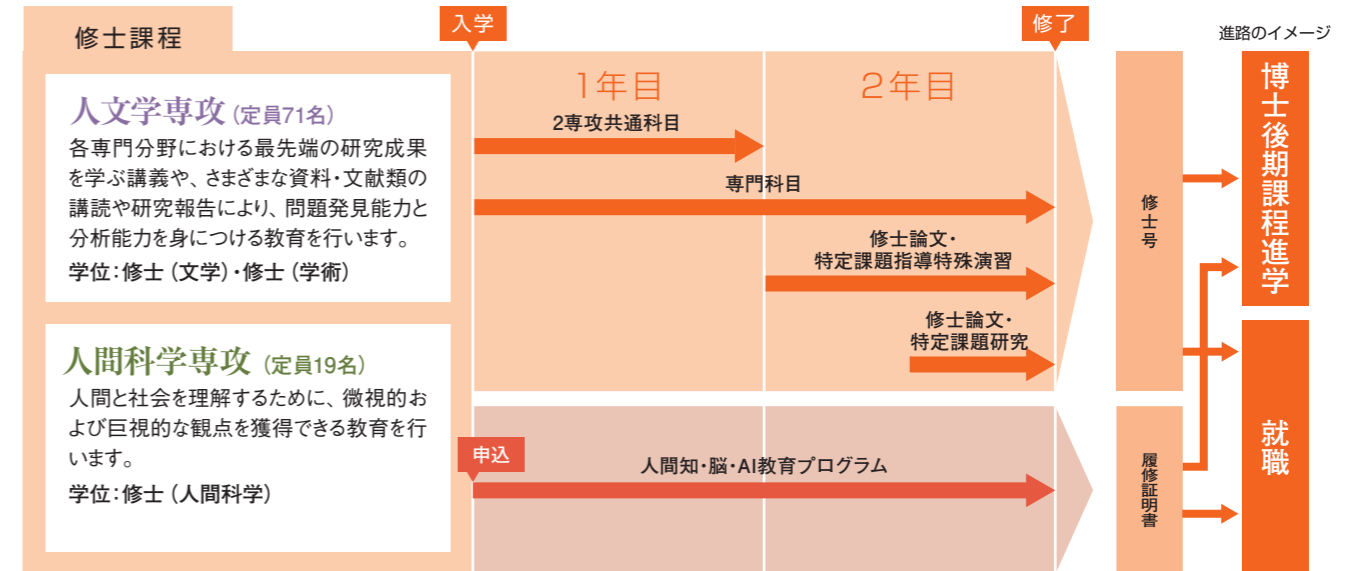
- 地域科学研究室

詳細は [p.31](#)

2専攻共通科目を開講。
俯瞰的な視野で
人文・社会科学を広く学修します。

2専攻共通科目として「人文社会構造論」「複合環境文化論」「多文化共生論」「総合社会情報論」「研究倫理・論文指導特殊講義」を開講しています。各専攻の所属講座が協力して展開する2専攻共通の授業です。専攻をまたいで人文・社会科学の多様な分野を広く学修することを通して、俯瞰的な視野から人間と社会を学ぶと同時に、学際的な研究手法の知識を深めることができます。

● キャリアプランに応じて必要な学修ができる履修モデル



人間知・脳・AI教育プログラムの詳細は [p.08](#)

● 文學院が目指す人材像

人文学専攻

- 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究、さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において、それぞれの研究の方法を身につけ、これまでの研究を適切に理解するとともに、必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析的確に行う能力を備えた人材。
- 異文化に対する知識とその深い理解力、さまざまな地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした、高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力を備えた人材。

人間科学専攻

- 認知心理学、社会心理学、認知科学、行動科学、社会学、地域社会学、人文地理学、社会生態学に関する専門知識を備えた人材。
- 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力を備えた人材。

★ 支援制度

この充実度は北大文学院ならではの 研究キャリアを国際的かつ豊かに積み重ねることができる支援制度

北海道大学大学院文学院には、独自の研究支援制度と豊かな研究環境が整っています。「国際的な研究キャリアを築きたい」という高い志と、「経済的な負担をできるだけ軽くしたい」というリアルな研究生活事情に応える充実の支援環境を存分にご活用ください。

共生の人文学プロジェクト 大学院生の研究活動にかかる経費支援

旅費支援

大学院生の国際学会・全国学会での研究発表および研究調査にかかる旅費を支援します（主として航空運賃を支援します。宿泊費は含まれません）。

利用した先輩の声

渡航費を気にすることなく、国際学会にチャレンジできました。／学会で国内外の研究者と交流することで、研究ネットワークを広げることができました。／発表をともに論文を執筆し、学術雑誌投稿につながりました。

校閲費支援

国際学会・国際研究集会での発表および国際学術雑誌、文学研究院の英文ジャーナル等への積極的な投稿を促すために、大学院生に対して発表原稿や投稿原稿の校閲（英文等の添削）料を支援します。

利用した先輩の声

2021年度より支援の上限が増額され、より使いやすくなりました。／支援を受けることで、論文執筆スキルと語学力の両方が磨かれます。／支援を受けた論文が海外ジャーナルに採録され、キャリア形成の大きな一歩になりました。

在学留学生向け支援

日本語校閲

日本語を母語としない在学留学生向けに、日本語校閲を行っています。学位論文のほか、発表応募原稿、発表読み上げ原稿など研究の進捗に資するものが対象です。

利用した先輩の声

日本語が不自然な理由の説明、修正の提案は大変わかりやすく丁寧です。／今回の論文だけではなく、今後の日本語での研究活動の参考になります。

キャリア支援セミナー

キャリアパス支援セミナー

博士号取得後の進路について、文学院（文学研究科）で学位を取得した方がさまざまなキャリアパスについて紹介します。

参加者の声

迷いながら、キャリアの選択をし、現在に至るという話がとてもリアルに感じられました。／どのような道を選ぶことになっても、頑張れる勇気をもらえました。／自分の人生にとって何が重要なのか、その取捨選択も判断していかなければならないことを考えさせられました。

就職ガイダンス

キャリアセンターおよび外部講師による講演、内定者の体験談、質疑応答を中心としたガイダンスです。

Advanced-COLA

人文・社会科学系の博士課程を修了後、産業界で活躍している企業人をお招きし、大学の中では知ることのできない企業活動の実態やその魅力を語っていただくとともに、人文・社会科学系の学位の意義についても議論するイベントです。（キャリアデザインセンター博士人材育成ユニット主催）



留学支援

北海道大学では53か国の国や地域において、207機関と203の大学間交流協定を結び（2026年1月現在）、グローバル教育や研究を推進しています。文学院では、24大学等と部局間交流協定を締結し、そのうち12大学と「学生交流覚書」を取り交わし、独自の交換留学制度を設けています。文学事務部の国際担当が、文学院生向けの「留学ガイドブック」を発行し、部局間交流協定校および大学間交流協定校への留学を支援しています。

- | | | | |
|------------------|--------------|---------------------|-------------------|
| ●中国 南京農業大学 | ●韓国 慶北大学校 | ●クロアチア ザグレブ大学 | ●イギリス サセックス大学 |
| ●中国 南京理工大学 | ●台湾 国立雲林科技大学 | ●フランス パリ・シテ大学 | ●イギリス マンチェスター大学 |
| ●中国 香港特別行政区 香港大学 | ●台湾 国立高雄大学 | ●ドイツ デュースブルク・エッセン大学 | ●イギリス ロンドン大学 SOAS |

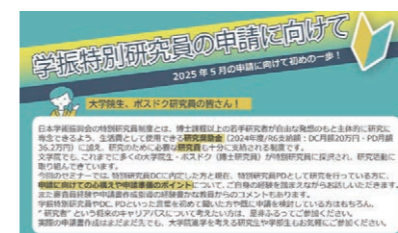
若手研究者支援セミナー

申請書の書き方セミナー

学術振興会特別研究員への申請を支援するため、申請書を書く心構えや基礎情報を提供します。特別研究員に採用された若手研究者や審査経験のある教員に経験談やアドバイスを語っていただきます。

教員コメンテーターの声

採択された申請書だけではなく、不採択だった申請書も見せてもらうと良かった点ばかりやすいのでおすすめです。



学術出版支援セミナー

学位論文を学術書として出版したい方向けに学術専門書の出版を支援するセミナーです。著書出版経験豊富な教員や出版社編集担当者からの話題とともに出版助成情報も提供します。

参加者の声

編集者の立場、執筆者の立場のお話を伺い、有意義でした。／参考資料の研究助成一覧が、大変見やすくてとても参考になりました。／博士論文そのままではなく、より幅広い読み手を想定すべきという点が勉強になりました。



申請書の書き方相談会

学術振興会特別研究員への申請を支援するため、個別相談を通してより実践的なアドバイスを受け、採択に向けて申請書をブラッシュアップすることを目的に開催しています。

参加者の声

親身に相談に乗っていただけて大変ありがたかったです。／自分では気がつかなかった視点に気がつくことができ、とても有意義でした。



海外研究支援セミナー

海外の研究機関や大学で研究をしたい、学位取得後は、海外でキャリアを積みみたい、海外でフィールドワークをしたい等、海外に研究の場を広げてアカデミックキャリアを積んでいくための「はじめの一歩」を後押しするためのセミナーです。

参加者の声

4人の方々がそれぞれ異なる制度を利用していたことが大変参考になりました。／それぞれの話の中に自分の状況に結びつけて考えられるネタがあって、それを探しながら聞くのが楽しかったです。／とてもモチベーションが上がりました。



大学院生支援セミナー

文学院の新入生向けに、文学院生が受けられる支援全般を紹介するセミナー。文学院だけではなく、全学で行っている支援についても紹介します。

参加者の声

共生の人文学プロジェクトをはじめ、様々な大学院生支援制度を知ることができたので、今後の研究生生活に生かしていきたいです。



社会連携セミナー

研究成果を広く社会に発信する研究アウトリーチや、専門知を活かして社会課題解決に取り組む大学院生・教員の実践例を紹介します。大学院生向けの学内外助成金の最新情報も提供します。

参加者の声

社会とのつながりを意識することが外部資金獲得に繋がりが、研究のブラッシュアップにも繋がっていることが分かりました。／自身の研究やキャリアについて検討する際、このようなロールモデルが大変参考になります。



★ 支援制度

研究環境・経済支援 文学院では、大学院生の研究環境の整備と経済支援に力を入れています。

学振特別研究員制度/フェローシップ制度

博士後期課程学生への研究および経済支援が拡充されています。文学院の大学院生がチャレンジできる制度は以下のとおりです。

●日本学術振興会特別研究員

学術研究の将来を担う創造性に富んだ若手研究者の養成・確保を目的に、日本学術振興会が博士後期課程学生、博士学位取得後5年未満の研究者に支給するものです。
|大学院生(DC1・DC2)研究費:年額150万円以内、生活費相当額:年額272万円

●ExcellenceとExtensionの融合による未来社会の開拓者養成プログラム (EXEX博士人材フェローシップ)

科学技術振興機構の「次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)」による制度。科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な博士後期課程学生への経済的支援およびキャリア開発を支援。
|研究費:年額40万円+a、生活費相当額:年額216万円

充実した図書室

北海道大学附属図書館本館と北図書館に加えて、文学部図書室を含む16の部局図書室があり、総蔵書数は約376万冊、貴重な北方関係資料の所蔵など、質・量ともに国内屈指の文献資料を誇ります。文学部図書室は、蔵書数約15万冊、受入雑誌数は約2,700種あります。北大生であれば、リモートアクセスにより、いつでもどこからでも蔵書検索や電子ジャーナルへのアクセスが可能です。



授業料減免・奨学金

入学料、授業料の納入が困難な学生に対して、入学料の減免または徴収猶予および、授業料の減免制度があります。また奨学金制度も利用できます。

院生図書費支援

大学院生は毎年、一定金額の範囲内で図書を購入することができます。購入図書は学位論文執筆期間中、優先的に利用することができます。

受賞成果

2025年度 受賞者情報 文学院の豊かな支援・環境を活用して、数々の研究成果が発表されています。栄えある受賞者が続々輩出されています。

- ブルガリア語弁論大会 学生初中級部門3位入賞 深谷芽生さん(修士課程)
- 日本人間行動進化学会 若手発表賞 齋藤悠輔さん(修士課程)
- 日本人間行動進化学会 若手発表賞 日下部春野さん(博士後期課程)
- 日本社会心理学会 奨励論文賞 日下部春野さん(博士後期課程)
- 「哲学の門」優秀論文賞 昆佐央理さん(博士後期課程)
- 日本医学哲学・倫理学会奨励賞 吉澤ひふみさん(博士後期課程)
- 日本リスク学会奨励賞 相馬ゆめさん(博士後期課程)
- 日本植生学会 優秀発表賞 平岡和さん(博士後期課程)
- JICA海外移住「論文」および「エッセイ」評論 熊谷雄さん(博士後期課程)
- 大塚賞 平岡和さん(博士後期課程)
- 大塚賞 張琴琴さん(博士後期課程)

このほかの年度の受賞情報は <https://www.let.hokudai.ac.jp/research/award-record> よりご覧いただけます。



さらに詳しい支援情報は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://www.let.hokudai.ac.jp/general/gshhs-portal#1-6>

★ 特色ある学際的教育プログラム

人間知・脳・AI教育プログラム(CHAIN^{※3}教育プログラム)

「人間」にも科学技術にも通じた高度人材に成長

人文社会科学・脳科学・AI研究が交差する地点で

「人間」について多角的に学ぶ文理融合型の教育プログラム。

人文社会科学、神経科学、人工知能等の各領域を専攻する大学院生が、

所属大学院を超えて学際的共同研究に参画し、

関連する知識・技能を学びながら、それぞれの専門的知見・技能をも深めていきます。

必要な単位を修得した履修生には、修了証書が授与されます。

※3) CHAIN
Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience
人間知・脳・AI研究教育センター



プログラムの概要

プログラム・ベースド・ラーニング

人文社会科学、神経科学、人工知能の各領域の中から、自分の専門としない分野の基礎知識とスキルをコースワークを通して学ぶ。

プラットフォーム・ラーニング

国内外から招へいた第一線の研究者によるSS^{※4}とWS^{※5}に参加。学際的議論を通して研究の最先端に触れ、ネットワーク形成も行う。

プラクティカル・ラーニング

学内外の研究室へのインターンシップ、海外の研究室への研究留学、連携企業でのインターンシップを通して、自ら得た知識・スキルを実地に生かす。

※4) SS:サマースクール ※5) WS:ウィンタースクール

履修モデル

修士課程1年から5年間で履修する場合		博士後期課程1年から3年間で履修する場合	
人文社会系	自然科学系	人文社会系	自然科学系
●修士課程1年目 人間知序論I,II/入門ベイズ・モデリング/ディープラーニング演習/SS/WS	●修士課程1年目 人間知序論I,II/ディープラーニング演習/意識の科学入門/SS/WS	修士課程1・2年目 各自専門の修士課程を修了	
●修士課程2年目 意識の科学入門/SS/WS	●修士課程2年目 哲学特殊講義/SS/WS	●博士後期課程1年目 人間知序論II/国内研究室インターン/意識の科学入門/ディープラーニング演習/SS/WS	●博士後期課程1年目 人間知序論I,II/哲学特殊講義/研究留学/SS/WS
●博士後期課程1年目 国内研究室インターン/SS/WS	●博士後期課程1年目 研究留学/SS/WS	●博士後期課程2年目 研究留学/入門ベイズ・モデリング/SS/WS	●博士後期課程2年目 意識の科学入門/企業インターン/SS/WS
●博士後期課程2年目 研究留学/SS/WS	●博士後期課程2年目 企業インターン/SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS	●博士後期課程3年目 SS/WS

各大学院での博士号取得と同時に「人間知」の修了証書を取得

本プログラム終了後は、研究者として学際的研究に従事したり、「人間」にも科学技術にも通じた高度人材として企業に就職したりといった道があります。博士後期課程修了者の就職も支援しています。

人間知・脳・AI教育プログラムの詳細は、右のQRコードよりご覧いただけます。

<https://www.chain.hokudai.ac.jp/education/>



人文学を総合的かつ領域横断的に学ぶ

人文学専攻

思想・文化・歴史・地域・言語・文学の領域を幅広くカバー

北海道だから学べる
豊かな人文学の
世界がここに。

主な講義科目

哲学倫理学研究室	■英米哲学研究 ■フランス・スピリチュアリズム研究 ■道徳哲学基礎文獻講読 ■Husserl: Ideen II ■非古典論理学研究
宗教学インド哲学研究室	■宗教学と死生学・生命倫理 ■部派仏教文獻研究 ■インド哲学専門文獻講読 ■物質宗教論
日本史学研究室	■植民地朝鮮の社会と文化 ■明治憲法体制と国家の運営 ■近世蝦夷地在地社会論 ■古代法制史料の研究 ■日本近中世史の諸問題
東洋史学研究室	■アラブ・イスラーム史研究 ■オスマン朝史研究 ■中国近現代史研究 ■近世中国史料研究
西洋史学研究室	■近代ヨーロッパ史研究 ■アメリカ史研究 ■フランス近代史研究 ■西洋古代史研究 ■中近世ヨーロッパ史研究
考古学研究室	■考古学と人類誌 ■先史時代研究の実践 ■物質文化と先史社会 ■考古学と考古科学 ■環境考古学と動物考古学
文化人類学研究室	■人類学(再)入門 ■生命論的人類学 ■身体性的人类学
芸術学研究室	■現代美術研究の現在 ■西洋美術史研究の現在 ■美学文化科学研究報告
博物館学研究室	■ミュージアムから社会を見る ■博物館と地域資料 ■動物と人の関係史
欧米文学研究室	■翻訳論 ■英米文学研究 ■古代ギリシア語文獻講読 ■ロシアの文学研究
日本古典文化論研究室	■浮世草子研究 ■中世文学研究 ■源氏物語解析 ■上代文学研究
中国文化論研究室	■簡朝亮「論語集注補正述疏」研究 ■「苜蓿漁隠叢話」精読 ■「朱子語類」研究 ■「品花宝鑑」精読
映像・現代文化論研究室	■映画・表象・表現 ■日本現代文化の諸問題 ■ジェンダー研究 ■視覚文化研究
言語科学研究室	■近代日本語資料研究 ■日本語アクセント論 ■ロマンス語対照研究 ■日本語研究のトピックス ■古典日本語研究のための資料精読 ■認知言語学概説 ■ロシア語学・スラブ語学の諸問題 ■日本語比喩表現の研究
スラブ・ユーラシア学研究室	■ユーラシア境界研究(英語文獻講読) ■An Introduction to the Survival Strategies Study ■ロシア帝国論 ■中東欧・ロシア近現代史 ■ロシア文化論 ■中東・バルカン半島の言語と社会 ■スラブ・ユーラシア地域の経済 ■中東欧比較政治論 ■北極域の国際関係 ■前近代ユーラシア環境史 ■近現代ユーラシア国際政治
アイヌ・先住民学研究室	■先住民考古学の現在 ■アイヌ・先住民政策史 ■アイヌ・北方先住民の宗教 ■先住民の言語と文化 ■アイヌ・北方先住民史 ■先住民文化と文化資源 ■先住民文化遺産と考古学

修士・博士研究テーマ例

哲学倫理学研究室	○修士 陰謀論概念に対する関心ベースの概念工学の試み / 「存在と時間」における「責めある存在」と決意性の解釈—規範と責めの観点から— ●博士 カトデ理論の再構成と応用可能性—有徳な人の感情と人間以外の存在に対する道徳的配慮の観点から—
宗教学インド哲学研究室	○修士 高齢者施設における死と宗教的ケア—生活と関係の視点から— / 唐代中国仏教の「思」思想—類書「法苑珠林」を中心として— ●博士 Organ Transplantation Metaphors A Comparative Corpus-Based Study of Life Depictions in Newspapers
日本史学研究室	○修士 1910~1920年代樺太開発と朝鮮人・中国人 / 寛政改革期の蝦夷地政策と御三家の政治参与 ●博士 竹越与三郎に関する思想研究—「自由帝国主義」の国家構想—
東洋史学研究室	○修士 金毓敏の日本訪問から見る近代日中學術史 / イブ・ハルドゥーン「イバールの書」におけるjaliya ●博士 「関帝」の誕生へ—明中後期の関羽信仰—
西洋史学研究室	○修士 脱植民地期のフランス領西アフリカにおける黒人エリート / 開かれた「労働者階級」を求めて—1970年代イギリスにおけるヒストリー・ワークショップの歴史実践— ●博士 近世アルザスをめぐる権力秩序—神聖ローマ皇帝・フランス王・帝国等族—
考古学研究室	○修士 縄文土器の地域差と時期差—土器胎土中の海綿骨針に注目して— / 小樽市忍路土場遺跡出土土器の実験 ●博士 近世日本のニトリ利用に関する動物考古学的研究
文化人類学研究室	○修士 ほどかれ、縫い合わせる生—現代中国の産後ケア施設における「宝一媽」の生成— アート実践による地域文化との応答制度と子どもに挟まれた持続的リミナル空間の考察— 苫小牧市美術博物館子ども広報部びとこまの事例— ●博士 A Life Lived Punk: Live Music and Intergenerational Relationships in Aging Japan
芸術学研究室	○修士 出光美術館蔵「宇治橋柴舟図屏風」についての考察 / 昭和後期の日本文化における替女像 ●博士 狩獵塔・レ・テ・ラ・バラダの絵画装飾研究—16,17世紀のスペイン宮廷における君主教育と宮廷絵画ディエゴ・ベラスケスとの関連から—
博物館学研究室	○修士 近世武家社会におけるワシ羽の価値—北方地域からの供給と幕府・東北諸藩による入手・利用— アイヌ文化を基盤とする観光まちづくりにおける地域博物館の役割— 平取町立二風谷アイヌ文化博物館の事例から— ●博士 利用者の主体性を促す展示に関する研究—都道府県立博物館の常設展示を事例として—
欧米文学研究室	○修士 Tactile Imagination and a Militant Surrealist Attitude: Jan Švankmajer's Adaptations of Edgar Allan Poe ミハイル・アルツィバージェにおける実存主義の変遷—「身体性」から「伝道主義」、そして「境界」の実存へ— ●博士 Literary Fathers and Sons: Charles Dickens, Mark Twain, Sherwood Anderson, and Paul Auster
日本古典文化論研究室	○修士 「大和物語」六段、八段、二九段の読解研究 / 米沢本「沙石集」巻八における愚者—「をこがまし」を切り口に ●博士 吉田兼俱の「日本書紀」講釈の研究—中世の神典注釈をめぐる諸言説の連関—
中国文化論研究室	○修士 「白虎通義」所引緯書の再論 / 「金瓶梅」における李瓶児の「遺影」に対する考察 ●博士 楚ト筮祭禱簡における宗教儀礼と鬼神信仰に関する研究
映像・現代文化論研究室	○修士 マイケル・マン作品論 / 初期日本探偵小説論—乱歩史観を視座として— ●博士 ロベール・ブレッソン考—魂を創発する装置としてのシネマトグラフ
言語科学研究室	○修士 平安時代語における表記体と文体的関係性—計量的手法による構造分析— / Adjective-Participle Compounds Corresponding to Resultative Constructions in English: Analysis on Implicational Hierarchy of Resultatives ●博士 アイヌ語否定表現の語用論的研究—口承文芸テキストを中心に—
スラブ・ユーラシア学研究室	○修士 チャイコフスキの交響曲第4番における民謡旋律の音楽的意味—ロシア音楽史への位置付けの試み— 1877-78年ロシア・オスマン戦争とロシア帝国の南西コーカサス統治のはじまり: 占領から併合へ ●博士 エトノス・イデオロギー: ソヴィエト民族学における「エトノス理論」の諸相
アイヌ・先住民学研究室	○修士 アイヌ民族に関する学校教育と和入研究 / アイヌの口頭伝承におけるトバットミー—歴史との接続 ●博士 考古学の民族誌—北海道における考古資料の活用と地域との関わりを中心に



他の修士・博士論文の研究テーマはウェブサイトにてご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/master-doctor-thesis>

哲学宗教学講座

本講座の研究領域は、哲学、倫理学、宗教学、インド哲学の各分野を含みます。伝統的な原典研究から、先端的・理論的な研究、宗教現象の実証的研究、さらに、現代の諸問題に関わる生命・環境倫理学、情報科学や神経科学との学際的研究まで、多様な研究が行われています。人類の連綿たる営為の結晶である哲学や宗教をめぐる様々な考察の吸収・継承・展開のためには、思考力・感性・表現力を不断に磨くことが要求されます。さらに各分野の主要テキストと本格的に取り組むために古典語を含む複数外国語の習得が必要となる領域もあります。



●哲学倫理学研究室



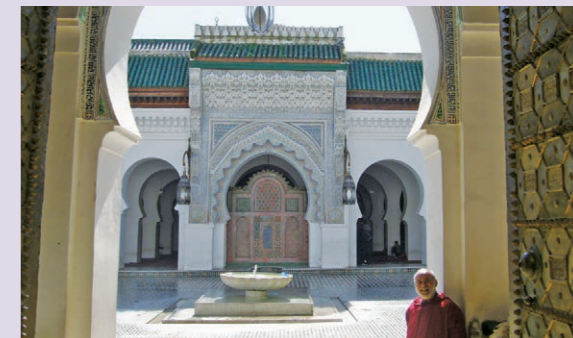
●宗教学インド哲学研究室

歴史学講座

「日本史学研究室」「東洋史学研究室」「西洋史学研究室」「考古学研究室」から構成されています。歴史学は、いまこの世界が成り立っている所以を過去に遡って探究する学問です。また、それと同時に、現代の世界の在り方を相対化するための手がかりを過去に求めようとする学問でもあります。そしてなによりも、史資料を通して過去の人々との「対話」を楽しむ学問です。当講座は、日本はもちろんのこと、世界中の幅広い地域を対象として、このような試みのための場を提供しています。



●日本史学研究室



●東洋史学研究室



●西洋史学研究室



●考古学研究室

文化多様性論講座

この講座では、「文化人類学」、「芸術学」、「博物館学」という性格が異なる3つの学問分野の教員が、〈文化多様性〉と〈フィールドワーク〉という共通項で教育・研究を行います。人類の文化の多様性と共通性を研究する「文化人類学」。古今東西の美術をはじめ、音楽、文芸、演劇などの多様な芸術を対象に研究する「芸術学」。そして、これらの成果を、展示を含めた事業を通して、多様なミュージアムでどのように展開するかを研究する「博物館学」。これらの研究を、机上で文献をひもとくだけでなく、実際にその現場で考えるフィールドワークを通して進めています。



●文化人類学研究室



●芸術学研究室



●博物館学研究室

表現文化論講座

欧米文学、日本古典文化論、中国文化論、映像・現代文化論の4研究室によって構成され、文学・思想・映像・大衆文化などを含む幅広い文化を教育・研究の対象とします。英語圏、フランス、西洋古典、スラブ語圏、中国、日本の各地域と言語、および古代から現代までの時代にわたって、人間が表現してきた豊かな作品を、多様な批評理論・映像論・文化理論に基づき、理論的かつ具体的に分析し評価することを主眼とします。言語文化や視覚メディア文化を深く研究したい方を歓迎いたします。



●欧米文学研究室



●日本古典文化論研究室



●中国文化論研究室



●映像・現代文化論研究室

言語科学講座

言語を科学的に捉える視点から、一般言語学と個別言語学について、記述的、理論的、実証的、応用的な研究を行います。国語学、日本語学、英語やフランス語・ロマンス諸語、ロシア語・スラブ諸語等のヨーロッパ系言語学、韓国朝鮮語などを中心とするアジア系言語学などの個別言語学のほか、言語学の多様なアプローチでことばを研究しています。歴史言語学や社会言語学、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の全般に関して言語現象を広く多層的に学びます。



●言語科学研究室

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア（ロシア・中央ユーラシア・東欧）は、豊かで多様な文化を持ち、現代世界を考察するうえでも欠かせない地域です。本講座は、この地域の研究の世界的拠点であるスラブ・ユーラシア研究センターの教員が担当しています。センターが所蔵する日本最大規模の図書・資料を利用し、センターに滞在する国内外の研究者との交流や、頻りに開催される国際シンポジウム・研究会から刺激を受けながら、歴史、政治、経済、国際関係、文学・文化、言語、人類学などの諸分野を研究することができます。



●スラブ・ユーラシア学研究室

アイヌ・先住民学講座

世界には70カ国以上におよそ5000の先住民が暮らしています。先住民学は比較的新しい学問領域ですが、先住民を取り巻く文化資源、生活環境、経済社会開発、法制度等々、研究課題は多岐にわたります。研究では、課題に応じて独自の手法が必要であり、多角的な検討が求められます。アイヌ・先住民学講座には、考古学・歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学の教員が在籍しており、アイヌ民族をはじめとする世界の先住民について学問領域横断的に学ぶことができます。



●アイヌ・先住民学研究室

哲学宗教学講座 哲学倫理学研究室

哲学倫理学研究室では、古代ギリシア以来の西洋哲学・倫理学の原典研究をはじめ、分析哲学・現象学などの現代哲学や日本哲学、論理学やメタ倫理学などの理論的研究、応用倫理学諸分野、神経科学やAI・ロボティクスとの学際的研究など、古今の様々な理論や諸問題に関する研究・教育を行っています。

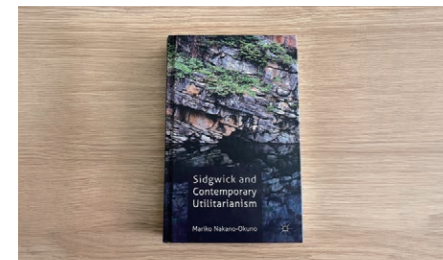
Lab.letters 教員からのメッセージ

奥野 満里子 教授

OKUNO Mariko

研究内容

シジウィック、R.M. ヘア、パーフィットらを中心とする道徳哲学、現代功利主義、生命倫理学。人格同一性の問題、人間の不完全性・非合理性にも関心を寄せつつ、現実の世界における生身の人間のあり方を考察しています。



▲功利主義の博士論文を英訳した『Sidgwick and Contemporary Utilitarianism』。R.M.ヘア本人が送ってくれた資料も引用した。その資料は「宝物です」。

ルール作りをゴールとしない 議論の道筋を耕す応用倫理学

減農薬栽培に励む生産者の方々や害のない農業作りに打ち込むメーカーの研究者たち。どちらも信念を持って自分が「正しい」と思う道を進んでいます。こうした異なる価値観を持つ両者が議論をする場で倫理学者ができることは何でしょう。例えば皆が無意識に使っている「権利」や「義務」などの概念の意味や食い違いを明らかにし、そもそもルールが必要か否かを含めて考える道筋を提示する。あるいはこれまで見落とされてきた共通点を整理することで議論の価値を生み出していき、単に「ルールを作る」ことだけをゴールとしない、発展的な議論の場を耕すことで個々人の幸せのありようを考え実践しています。



▲話し合いの場を整理し、互いに「見落とししているかもしれないこと」を探る姿勢を日頃のゼミから身につける。

価値観の対立の奥にある 相手の真意を一度受け止める

私の研究室は皆さんが自分の考えを持ち寄って交換する場であり、「論破」する場ではありません。「ディスカッションする」イコール「相手を否定する」「自分の間違いが明るみに出る」ではなく、新しい世界の扉を開けるきっかけの場です。自由な思考を満喫できる大学生のうちに、価値観の対立の奥にある相手の真意を一旦受け止める。そのプロセスを経験することが皆さん自身の成長につながると確信しています。学生が気兼ねなく議論ができる風通しのいい空間を作るのは、私たち教員の務めです。私もこれまで学生から学ばせてもらうことが多々ありました。皆さんとの学び合いを楽しみにしています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

奥野 満里子 教授 OKUNO Mariko

■研究分野
現代英米倫理学、道徳哲学、応用倫理学

佐野 勝彦 教授 SANO Katsuhiko

■研究分野
論理学(特に非古典論理、哲学的論理学)

田口 茂 教授 TAGUCHI Shigeru

■研究分野
西洋近現代哲学(特に現象学)、意識の学際的研究、日本哲学

村松 正隆 教授 MURAMATSU Masataka

■研究分野
近現代フランス哲学、近現代倫理学

宮園 健吾 准教授 MIYAZONO Kengo

■研究分野
心の哲学、心理学の哲学、精神医学の哲学、美学、認識論、近世哲学

野村 恭史 助教 NOMURA Yasushi

■研究分野
現代分析哲学(特にウィットゲンシュタインの哲学)

哲学宗教学講座 宗教学インド哲学研究室

宗教学インド哲学研究室は、宗教学・宗教学史、宗教民俗学、死生学、仏教学、インド哲学などを研究分野とする教員によって構成されており、所属する大学院生は、関連領域の研究職や深い専門知識を必要とする一般職への就職をめざし、上記分野に関連したテーマについて研究を深め学位を取得していきます。

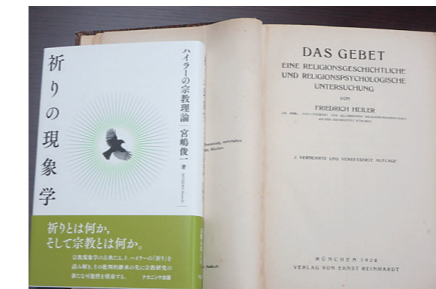
Lab.letters 教員からのメッセージ

宮嶋 俊一 教授

MIYAJIMA Shunichi

研究内容

宗教学理論、方法論、学説史研究。及びそれを様々な宗教現象の分析・比較研究へ応用することの試み。「スピリチュアリティ」研究、宗教と生命倫理について死生学的な視点を含めた研究、いのちや環境をめぐる問題に対する近代文明批判の立場からの研究など。



▲ハイラーの宗教理論を研究した『祈りの現象学』(ナカニシヤ出版)を2014年に出版。ハイラーの著書『祈り』(英語版)の表紙を飾った鳩のアイコンを本書でも形を変えて継承した。

古今東西の宗教現象 に目を向け 「祈り」を考えるハイラーに共感

「祈り」という単語からすぐにキリスト教を連想する人は多いと思いますが、ドイツの宗教学者フリードリヒ・ハイラーは古今東西から「祈り」と呼ぶ宗教現象を集めて分析した大著『祈り』を発表し、第一次世界大戦後のドイツ国民に広く受け入れられました。これまでハイラーは西洋中心主義的であると批判されてきましたが、宗教学における比較研究の重要性を鑑みて、近年では『祈り』から肯定的に継承すべきものを読み取るようとしています。

北海道大学にはキリスト教研究の伝統がありますが、各研究室の多彩な先生方との連携により研究の幅が広がります。総合大学である利点を活かせば死生学の問題に関して他学部との共同研究も可能で、豊かな膨らみのある宗教研究が実現できる環境です。



▲2007年に訪れたネパールのカトマンドゥ。現地の宗教施設を訪ね、直接話を聞いてきた。

心酔と無関心の両極から逃れ 理解するための狭間に立つ

一般に信仰に基づく研究では「私」の問題が大きな比重を占めますが、宗教学は「彼/女」が問題をどう受け止めているのかを探る、他者理解を目指す学問です。学生指導ではつねに、研究対象に対して学問たりうる適切な距離を保つよう自覚を促しています。日常生活においても、ある事柄に対して「心酔」と「無関心」の両極端では理解が深まりません。両極の狭間で立ち位置を模索しつつ対象と向き合うという、人生においても大切な姿勢を宗教学は教えてくれます。

学生の皆さんには、研究室に閉じこもらず、海外を含めた「外」に飛び出す楽しさを、知ってほしいと思います。私自身、ドイツへの留学経験もありますが、海外からの留学生も、ぜひ北大で宗教学を学んで欲しいと思います。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

林寺 正俊 教授 HAYASHIDERA Shoshun

■研究分野
仏教学、仏教思想史

宮嶋 俊一 教授 MIYAJIMA Shunichi

■研究分野
宗教学、死生学

眞鍋 智裕 准教授 MANABE Tomohiro

■研究分野
インド哲学、インド哲学史

佐崎 愛 講師 SAZAKI Ai

■研究分野
宗教学、宗教民俗学

歴史学講座

日本史学研究室

日本史学研究室は、古代・中世・近世・近現代に関する、日本列島および中国大陸・朝鮮半島・北方地域を視野に入れた実証的研究が特徴です。これまで、実に多くの研究者が輩出してきました。学内には日本史分野の専門書が揃い、史料（北方史の基本史料および各時代・各分野の刊本資料・復刻版等）も豊富に集積しており、研究環境に恵まれています。

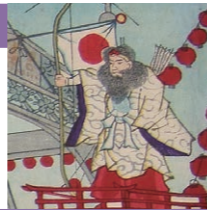
Lab.letters 教員からのメッセージ

川口 暁弘 教授

KAWAGUCHI Akihiro

研究内容

明治憲法下の国家運営の諸相に関する、思想・制度の問題をふまえた政治史研究。



▲明治22年2月5日に印刷された大日本東京吾妻橋真画「憲法発布式大祭之図」三枚続の一部（川口教授所蔵）。

アメリカ18回、スイス119回
日本ではまぼろしの憲法改正

世界各国の憲法改正状況を調べると、アメリカは18回、ドイツは43回、スイスにいたっては119回も、憲法を改正しています。わが国では1回です。日本国憲法は、大日本帝国憲法の改正によってできたものです。ところがこの事実は、日本人の歴史認識になっていません。まぼろしの憲法改正なのです。一方、1890年に施行された大日本帝国憲法は1946年まで一度も改正されたことがありません。1947年に施行された日本国憲法は本日ただいまにいたるまで、一度も改正されていません。どうやら私たち日本人は「一度作った憲法を改正することなく使い続ける」特異な傾向を持っているようです。これらの興味深い現象の原因を究明するのが、私の仕事です。

自分がおもしろいと思える
研究テーマで常識を再検討

「時代の機微に応じて憲法を改正する」という世界の常識が実は日本には当てはまらないように、我々を取り巻く常識を再検討することで見えてくる世界のありようを自力で明らかにするのが、この学問の醍醐味です。題材選びを他人に委ねたり研究の近道を安易に追いかけていたりしては、残念ながら自身の成長につながりません。幸い北海道大学には落ちついてものを考えられる静かな環境があり、励まし合える先輩後輩もいます。私も皆さんの研究意欲を刺激できるように明治憲法史への尽きない関心を盛り込んだ授業で応援しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

川口 暁弘 教授 KAWAGUCHI Akihiro

■研究分野
日本近代史、明治憲法史

権 錫永 教授 KWEON Seok-Yeong

■研究分野
日本近代思想史、植民地朝鮮文化史

谷本 晃久 教授 TANIMOTO Akihisa

■研究分野
日本近世史、北海道地域史

橋本 雄 教授 HASHIMOTO Yu

■研究分野
日本中世史、東アジア海域史

吉田 拓矢 准教授 YOSHIDA Takuya

■研究分野
日本古代史、天文暦算史

歴史学講座

東洋史学研究室

東洋史学研究室では、漢文・現代中国語・ペルシア語・アラビア語・トルコ系諸語等多様な言語で書かれた史料を読むことで、広く東洋諸地域を対象に歴史研究を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

吉開 将人 教授

YOSHIKAI Masato

研究内容

多民族から構成される近代国家として中国の統合がいかに進められたかという関心から20世紀中国史について、中国世界を外と分けるものは何かという関心から西南中国と嶺南地域について、そして学者たちはどのように自国史を認識してきたかという関心から中国近現代学術史について、それぞれ研究を進めています。



▲新旧の中国政治空間—北京紫禁城と人民大会堂。



▲貴州・雲南境界に立つ民国期土目顕彰碑（「黔辺保障」碑）に感涙。

「レジスタンス」への眼差し、中国問題を理解する鍵は過去にあり

私の学問的関心は、大学3年生だった1989年に、チベット人の蜂起と当局による鎮圧を現地では旅行者として偶然目撃し、また戒厳令下のラサを離れて帰国した後も、北京で始まった民主化運動が厳しく平定されていった過程を報道から知って、中華人民共和国という国家から大きな衝撃を受けたことに由来しています。

以来、中国に対しては、熱い歴史的ロマンの対象としてではなく、感情を抑えて冷徹に観察すべき対象として接し続けてきました。国家が形作られる中で社会にどのような矛盾が生じ、それをコントロールする国家制度や権力がいかんして形成されたのか、異なる地域がどのように包摂・排除されて今日の中国の枠組みが形作られたのか、そして人々は「過去」の歴史をいかに「現在」に結び付けてきたのか。これが私の30年来の関心であり、各地を歩き、また様々な研究分野に身を投じることで、多くの中国人から話を聞き、研究者から学び、そして数々の貴重な文献や史料を集めてきました。こうしたものを基礎として、最近ようやく長年の疑問に対し、自分なりの理解を得た感があります。

以上のような関心と研究過程を語ると、今の中国を研究すれば十分だろうと思う人が多いことでしょう。しかし実は今の中国を生み出しているのは古代から続いてきた中国特有の歴史で、「現在」もまたその歴史的变化の中にあります。「過去」と「現在」をつなぐのは歴史学です。過去の中国に関心があるが今日の中国についても知りたい、あるいは今日の中国に関心があるので過去の中国について知りたいという人に、是非とも来て欲しいと思います。

中国をいかに読み解くか、北海道の視点が大きいなる刺激に

中国という国やそこで暮らす人々の思考は、表面的に接するだけでは理解不可能と思われがちです。しかし「わからない」と言って距離を置くのではなく、むしろ取り組みがいのある「謎」として、その本質に深く迫っていく楽しさが、実はそこに秘められているのです。

中央から離れた北海道は、研究者の思考を縦横無尽に膨らませてくれる面白い場所。私自身、南中国の歴史や中国民族論について考えるうえで、本学で盛んな北方史研究を比較の視座として加えることができ、思いがけない収穫を得ました。これから北海道で中国史を学ぶ皆さんにも、きっと刺激的な新しい成果をもたらしてくれると確信しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

佐藤 健太郎 教授 SATO Kentaro

■研究分野
中東イスラーム史（特に西地中海地域）

吉開 将人 教授 YOSHIKAI Masato

■研究分野
中国近現代史、南中国、民族問題、学術史

小林 晃 准教授 KOBAYASHI Akira

■研究分野
中国近世史、宋代政治史

末森 晴賀 講師 SUEMORI Haruka

■研究分野
オスマン朝・トルコを中心とする西アジア史

歴史学講座 西洋史学研究室

西洋史学研究室では、古代から中近世、近現代へといたるヨーロッパとアメリカの歴史を対象として、政治史、経済史、社会史、文化史などのアプローチによって研究をおこなっています。また最近では、ジェンダーやナショナリズム、植民地主義や移民といった新しいテーマにも取り組んでいます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

飯坂 晃治 准教授

IISAKA Koji

研究内容

古代ローマ帝国の統治構造について、皇帝権力とイタリア地方都市の関係に着目しながら研究しています。



▲イタリア・オステリアにあるラテン語碑文。彫像の台座に刻まれたもので、この都市の名士を顕彰している。碑文のデータ化も進んでいるが現地調査で得られる情報が大事な手がかりになる。



▲南フランス・オランジュのローマ劇場。ローマ帝国の都市の指導者たちは義務や優越感の表れとして私費で公共建築物や劇場、闘技場を建設した。

2世紀の碑文に刻まれた 古代ローマ版「こども手当」

古代ローマ帝国には皇帝が今でいうこども養育基金を地方都市に設け、その出資金を土地所有者に貸し付けて得た利子収入を市民の少年少女に給付する「アリメンタ制度」がありました。当時まだ国家に利他的な福祉の概念はなかったので、いかなる目的から皇帝がこのアリメンタ制度を実施したのか、また、地方都市の市民にとってこの制度にどのような意味があったのかを探る必要があります。貸付相手や金額等が記されている「アリメンタ碑文」も残されており、制度の実態を読み解く手がかりになります。史料のなかに眠る新しい史実を掘り起こし、自分の常識が壊されていく楽しさが、次の研究へと駆り立ててくれます。

真偽を見極めるリテラシーと 他者理解が歴史を学ぶ学生の長所に

北海道大学の西洋史学研究室は多人数の教員による手厚い指導が特徴です。留学や博士論文の書籍化を支援してくれる制度も充実しており、キャリアの糸口を開いてくれます。歴史学はラテン語などの語学をはじめ、政治学や経済学、社会学等様々な興味関心を受け止めてくれる学問です。そうした多彩な学びを通して皆さんに身につけてほしいのは、情報の真偽を見極めるリテラシーです。また、歴史という日常とは異なる時間軸やスケール感で人の営みを考えることによって、多様なバックグラウンドを持つ他者への理解が深まります。私も現代を生き抜くためのリテラシーと他者理解が歴史を学ぶ学生の長所となるよう指導していければと思っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

長谷川 貴彦 教授 HASEGAWA Takahiko

■研究分野
イギリス近現代史、歴史理論

松蔭 明男 教授 MATSUSHIMA Akio

■研究分野
近現代フランス史

村田 勝幸 教授 MURATA Katsuyuki

■研究分野
アメリカ史、アメリカ研究

飯坂 晃治 准教授 IISAKA Koji

■研究分野
西洋古代史、古代ローマ史

安酸 香織 准教授 YASUKATA Kaori

■研究分野
近世ヨーロッパ史、アルザス地域史

歴史学講座 考古学研究室

人工遺物・遺構・遺跡研究のトップランナーと、最新の考古科学を駆使する動物・植物考古学、文化財科学・年代測定の専門家により教員が構成される考古学研究室。旧石器時代～近現代、ユーラシア大陸・日本列島～アメリカ大陸という幅広い時期・地域をカバーする充実したスタッフ、大学院生の先端的な研究推進を支援します。

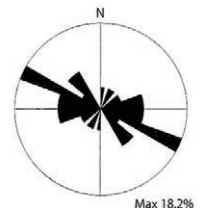
Lab.letters 教員からのメッセージ

夏木 大吾 准教授

NATSUKI Daigo

研究内容

日本列島およびシベリア・ロシア極東の先史人類社会について、環境適応という視点から研究を行っています。特に後期更新世末から完新世前半の環境激変期における技術革新とその伝播、人類の行動的・社会的変化について研究を進めています。



Max 18.2%



▲北見市隼牛内20遺跡から発掘された有茎尖頭器。米考古学界も有茎尖頭器に注目しており「最初のアメリカー人」と日本を結ぶ新説に発展する可能性も囁かれています。

北海道の白地図に眠る 狩猟採集社会を明らかに

日本列島の人々の起源を考える上で北海道は大陸との関係性から非常に重要な位置を占めています。ところが意外にもその広さと人口密度の低さから考古学調査的には白地図の地域が多く残っています。新たな発見によって従来の定説を更新していく考古学者にとって、北海道の白地図はそのまま宝の地図のようなもの。その空白に挑む面白さに魅せられています。

私の関心は旧石器時代の狩猟採集民の人間行動を明らかにすることです。石器の集積を発見したときにそれは意図的にそこに捨てられたものなのか、使われた場所にそのまま放置されたものなのか。遺跡の地学的・空間的なデータ分析から当時の狩猟採集社会を立ち上げようとしています。



▲サハリン・タコエ4遺跡での調査風景。発掘調査は人間力も鍛える場。地域の理解と協力があって成り立つことを常に念頭に置いている。

多角的に揺さぶりをかけて 問題解決に導く発想力

考古学の対象は動植物や古環境あるいは人間社会など実に多様です。その対象に向かって古代土壌DNA解析や石器の使用痕分析などのさまざまな手法でアプローチしていくのが考古学研究者の腕の見せどころです。問題に対して論理を組み立て多角的に揺さぶりをかけていく発想力は、一社会人としても求められる要素です。ときには自説を手放し視点を改める勇気も、考古学から得られる大切な学びの一つです。北海道大学には北方の考古学を探究してきた長い歴史と稀少なコレクションがあり、札幌キャンパスからもいくつもの遺跡が発掘されています。従来の定説に疑問の余地は全くないのか。北海道から掘り起こす発見がその答えを照らしてくれます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

江田 真毅 教授 EDA Masaki

■研究分野
動物考古学、考古鳥類学、文化財科学

高瀬 克範 教授 TAKASE Katsunori

■研究分野
考古学、植物考古学、歴史生態学

國木田 大 准教授 KUNIKITA Dai

■研究分野
考古学、文化財科学

中澤 祐一 准教授 NAKAZAWA Yuichi

■研究分野
考古学、人類進化史

夏木 大吾 准教授 NATSUKI Daigo

■研究分野
考古学、先史考古学、地考古学

文化多様性論講座 文化人類学研究室

この地球上で人類はそれぞれの自然環境に応じて、多様な文化を育んできました。文化人類学とは、自然と結びついた文化の多様性を、研究者が実際に現場に身をおきながら明らかにする分野です。私たちの慣れ親しんだ世界の外に出て、人類の多様な可能性を知り、これからの地球社会を構想する、そんな自由で創造的な場が文化人類学研究室です。

Lab.letters 教員からのメッセージ

山口 未花子 教授

YAMAGUCHI Mikako

研究内容

人文化人類学、生態人類学の分野から「動物」について研究しています。主なフィールドはカナダのユーコン準州。先住民のカスカや内陸トリンギットの人々と動物との関わりについて狩猟や芸術、信仰などに焦点を当てながら調査を続けています。その他に日本の小型沿岸捕鯨、八重山のイノシシ猟なども対象にしています。



▲高校時代から描きためているフィールドノート。調査では「何でも記録する」。右上のラビットファー付きスリッパは作り方を教えて自作した。

動物との関わりを探り カナダ先住民の猟師に密着

動物と人との関わりを知りたい私が研究テーマにカナダ先住民の狩猟実践を選んだのは、動物のことを最も熟知している猟師さんにお話を聞くのが一番だと思ったから。狩猟採集民にとって動物は食料や衣類、角・革を使う工芸品にもなれば、歌や文化、宗教観などあらゆる面で深く関わっています。これらの関心事を全て受け止めてくれる、懐の深い文化人類学が「何でも知りたい」私には向いていたのだと思います。同時に寒冷地ほど暮らしの中の動物への依存度が高くなることを考え、日本で北方先住民の研究をするならば、やはり北海道大学が理想の選択肢。フィールド経験が豊富な先生方や充実した図書資料、また現地に近い気候も含めて、これ以上ない研究環境に身を置いています。



▲しとめたヘラジカはその場で解体し、気管は木の枝にかけておく。「風がそこを通ると気管にとどまった霊が息を吹き返し、また肉や皮をつけてヘラジカになって戻ってきてくれる」という言い伝えがあるからだ。記事右上の画像の手描きイラストはこの話を聞いて描いたもの。

人から受け取り、人へ伝える 文化人類学の本質に触れて

カナダでは先住民カスカの古老の狩猟に同行し、自分も見習い猟師として狩猟の技術や動物に関する知識について経験的に教わりました。その方だけが持つ知や技を教わる身としては、しっかり「受け取った」という成果を出したいし、その成果を見てもらいたい。その思いでともに過ごした日々でした。

そうした間柄でしたから、私が大学教員の職に就いたとお知らせしたとき、すごく喜んでくれたんです。自分の教え子である私がさらにまた誰かに伝承する立場になったことが嬉しかったのだと思います。そのときに初めて「人から学ぶ」文化人類学の本質に触れ、カスカの古老から私へ、私から皆さんへと教えを受け継いでいくという自分の役割に自覚がもてたような気がしています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小田 博志 教授 ODA Hiroshi

■研究分野
人類学、自発性研究、生命論、平和研究、エスノグラフィー論

山口 未花子 教授 YAMAGUCHI Mikako

■研究分野
人類学、ユーコンの自然誌、西表島のイノシシ猟、狩猟実践、動物をえがく

ケイトリン・コーカー 准教授 Caitlin COKER

■研究分野
人類学、身体論、パフォーマンス研究、暗黒舞踏、ポールドダンス

田中 佑実 助教 TANAKA Yumi

■研究分野
人類学、フォークロア、美術工芸、芸術、北欧先住民研究

文化多様性論講座 芸術学研究室

芸術学研究室には、美学・美術批評史・西洋美術史・現代美術史を専門とする教員がおり、人間の文化的な営みの精華である多様な芸術作品やその美的経験などを考察の対象として、理論的普遍的哲学的な方法と実証的個別的歴史的な方法とを相携えながら、芸術を巡る総合的な知の構築を目指して研究しています。

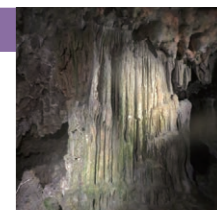
Lab.letters 教員からのメッセージ

浅沼 敬子 教授

ASANUMA Keiko

研究内容

長くヨーゼフ・ボイスやゲルハルト・リヒターといった、ドイツの現代美術家について研究してきました。現在は、日本やアメリカの写真や映像の作品分析を通じて、人間と大地との関係の変遷を調べています。



▲2014年開催の山城知佳子上映会+トークより(左=山城知佳子氏、右=東京都写真美術館学芸員・岡村恵子氏、同志社大学の菅野優香氏と共催)。

土地と向き合う媒体としてのアート

長くドイツ現代美術史を研究してきた私にとって、映像インスタレーション作家・山城知佳子の作品との出会いは大きな転機となりました。山城作品によって沖縄の土地について考えるきっかけを得たことで、自分の住む北海道の土地の表現への関心が生まれ、露口啓二の写真の研究、紹介に繋がりました。そこからさらに現代美術や写真の歴史における土地—ひろくいえば大地—の扱いに関心がひろがり、1970年代アメリカのランドアートや風景写真について調査を行うようになりました。その過程で私は、芸術家たちの仕事が、世界の状況に対していかに洞察的かつ予測的だったかに驚くことになりました。名のあるなしにかかわらず、芸術は、集団に包摂され得ない個々の感性や感情、発見や思索の表現であり、だからこそ私たちの感官にしばしば強く訴えます。そうした表現を「発掘」し、記述することは、社会の現状を捉えなおすだけでなく、未来への視座を得ることでもあるといえるかもしれません。



▲今井祝雄「ジョイントド・フィルム」(1973年)より From the video installation artwork of Norio Imai "Jointed Films" (1973)。

新しい表現活動にオープンに

大学教育で心がけているのは、学生さんに美術史の基礎知識を持ってもらうということです。その「基礎知識」には、私の専門領域である1950-60年代以降の現代美術 / 現代アートの歴史も含まれます。私の学生時代は、教えられる美術史は伝統的な絵画史に基づいていて、映像やインスタレーション、パフォーマンス、アートプロジェクトといった現実のアートシーンとは連動していませんでした。ですから、大学でより新しい表現の歴史を教え、研究することは、私の願いでありました。現代の表現は、過去の表現の歴史と深くむすびつく一方で、しばしば、身近にありながら私たちが見逃している現実との出会いを生み出します。そのような出会いを提供するのも大学の一つの役目ではないか、そう考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

浅沼 敬子 教授 ASANUMA Keiko

■研究分野
現代美術史

今村 信隆 教授 IMAMURA Nobutaka

■研究分野
美学、美術批評史、博物館学

谷古宇 尚 教授 YAKOU Hisashi

■研究分野
西洋美術史(イタリア美術史)

文化多様性論講座

博物館学研究室

博物館学研究室では、今日的なミュージアム・ミッションに対応した新しい価値のあり方や創造について、資料・作品・標本に関する調査研究の方法論に基づきながら、フィールドワークを通して考察していきます。博物館学的なアプローチの可能性を探りつつ、学芸員養成課程での基礎的な知識のバージョンアップを目指します。

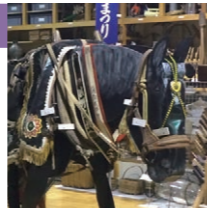
Lab.letters 教員からのメッセージ

卓彦伶 講師

CHO Yenling

研究内容

- ・博物館の地域連携活動のあり方とその社会的効果の検証
- ・小規模博物館における市民主体運営のあり方
- ・博物館の社会的役割



▲毎年9月に兵庫県伊丹市で開催される「鳴く虫と郷町」。市民参加型イベント「キリギリスハンター」などで事前に採集された幼虫を伊丹市昆虫館が飼育し、イベント期間中に皆で鳴き声を楽しむなど、市民の参加を軸とした多彩な活動が展開されている。

地域活性やまちの記憶の保管庫に ミュージアムが持つ多彩な“顔”

私が大学院時代にフィールドワークで通っていた伊丹市では、地元の昆虫館を中心に、市内の文化施設、市民、商店会が連携し、2006年から「鳴く虫と郷町」という事業に取り組んでいます。この事業が地域社会にどのような社会的効果をもたらしているのかを、ロジックモデルを用いて分析する試みを行ってきました。一方、北海道士別市朝日郷土資料室では、ボランティア組織への聞き取り調査を通じて、「自分たちのまちの記憶を残したい」という思いと、それを形にしていくアーカイブ活動のプロセスを記録してきました。

このように、地域ごとに異なる使命や役割を担うミュージアムや関係者へのインタビューを重ねる中で、「人々の記憶や思いを受けとめ、大切にできる場所」となりつつあるミュージアムへの解像度をさらに深めています。



▲北海道士別市の朝日郷土資料室では、80代・90代のメンバーを含むボランティア組織が元気に活動している。かつて林業で栄えたまちの歴史を伝える道具や民具を、使い方とともに記録・保存している。

フィールドに選んだ以上、 その土地に対して責任がある

北海道は開拓移民によってまちが発展していったため、ミュージアムにその土地柄が色濃く反映されています。それぞれの個性を大切にしながら、北海道ならではのミュージアムのあり方を一緒に探っていきませんか。

博物館学の佐々木亨名教授のご指導を受けた私がひととき鮮明に覚えているのは、「フィールドに選んだ以上、研究者はその地域に対して責任がある。自分たちの論文を書き上げることでその責任を果たすしかない」という教えです。私のようなミュージアムと地域連携をテーマにしている研究者にとっては、ことさら心に響く教えであり、この言葉とフィールドワークの大切さを、これから出会う学生の皆さんに繋げていきたいと思っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小山 亮 准教授 KOYAMA Ryo

■研究分野
日本近現代史、博物館学

久井 貴世 准教授 HISAI Atsuyo

■研究分野
動物に関する歴史と文化、歴史鳥類学、博物館学

卓彦伶 講師 CHO Yenling

■研究分野
博物館学

表現文化論講座

欧米文学研究室

欧米文学研究室では、ヨーロッパや英語圏の文学を堪能します。英語圏文学・フランス文学・ロシア及びスラブ文学・西洋古典文学などの伝統的研究を縦系に例えると、横系は文献学・文化歴史表象・比較文学・文学理論などの横断的手法。多様な糸で紡がれた文学の絨毯に乗り、想像と創造の世界に旅立ちましょう。

Lab.letters 教員からのメッセージ

竹内 修一 教授

TAKEUCHI Shuichi

研究内容

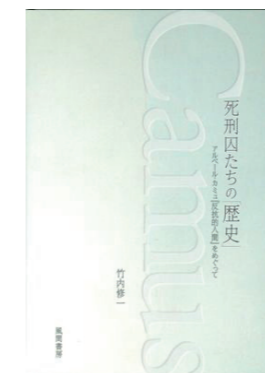
アルベール・カミュ研究、世俗化(脱宗教化)と文学。



▲パル・サント＝ジュヌヴィエーヴの丘の上に建つバンテオン(「汎神殿」の意味)。正面には「偉人たちに、祖国は感謝する」という銘句が刻まれている。

神なき時代の殺人を主題とする カミュの『反抗的人間』

『異邦人』で知られるカミュの著作の中でも本人が「もっとも重要な書物」と記したエッセイ『反抗的人間』については、これまでのフランス文学研究の中でもあまり顧みられることはありませんでした。神なき時代の殺人を主題とする本作に長年取り組んできた私なりの回答を、「死刑囚たちの『歴史』——アルベール・カミュ『反抗的人間』をめぐって」(風間書房)に集約しています。他方、近年では、宗教の影響が薄れた社会において、人々の記憶をまとめあげる歴史的モニュメントと文学(者)との関係にも興味をもっています。丸善から刊行された『フランス文化事典』では、「聖人」ではなく世俗的な「偉人」たちの霊廟であるバンテオンや無名戦士の墓の設置された凱旋門についての項目を担当しました。



▲『死刑囚たちの『歴史』——アルベール・カミュ『反抗的人間』をめぐって』(風間書房)。

論文形式に基づいた 読ませる文章能力を養う

フランスの高校生は哲学を学び、小論文にあたるような長文を書く経験を積んでいます。日本の場合、皆さんが本格的な長文を書くようになるのはおそらく大学以降でしょう。まずは「序論に始まり結論で終わる」といった論文の形式を入口に、持論を展開できる文章能力を養ってほしいと思います。

北海道大学では、留学の機会も開かれていますし、北大出身で現在活躍中のフランス文学の研究者もいます。人生の若い時期を奥深いフランス文学に費やそうという志ある皆さんの進学を待っています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小椋 彩 教授 OGURA Hikaru

■研究分野
ロシア文学、ポーランド文学、比較文学

竹内 修一 教授 TAKEUCHI Shuichi

■研究分野
フランス現代文学

竹内 康浩 教授 TAKEUCHI Yasuhiro

■研究分野
英米文学

戸田 聡 教授 TODA Satoshi

■研究分野
古典文学(特に古代ギリシア語文)、
古代キリスト教史

宮下 弥生 特任助教 MIYASHITA Yayoi

■研究分野
Shakespeare劇、物語理論、中世英語文学

表現文化論講座

日本古典文化論研究室

日本古典文化論研究室は、日本古典文学・日本古典文化に関する学問を行う研究室です。『源氏物語』に代表される古代から、近松・西鶴・芭蕉等が人気の近世まで、各自の好みに合致した研究を万全の体制でサポートします。

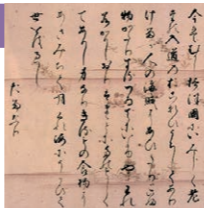
Lab.letters 教員からのメッセージ

野本 東生 准教授

NOMOTO Tosei

研究内容

中世に成立した説話集について、その表現性を追求すること、あるいはその機構を解明すること。



▲文献調査は、活字文献の用例調査と解釈・注釈が基本。近年は図書館の公開画像や検索エンジンの充実でインターネット情報の活用基盤も整理されてきている。

伝言ゲームで現在に至る説話集
書き手と読み手の関係性に着目

13世紀前半に成立した『十訓抄』や『宇治拾遺物語』は、短い話である説話が集まった説話集です。説話は物語とは異なり、比較的短い単体の情報であり、まるで伝言ゲームのように幾人もの手から手へと受け渡されて後世に伝わっていったという大変ユニークな特徴を持っています。ということは、「元は読み手だった書き手が、次の読み手にどう切り口で情報を伝えようとしているのか」、書き手と読み手双方の関係を推し量りながら作品を解釈していく面白さが、説話集研究には詰まっています。例えば、『十訓抄』のように一話ごとの教訓と説話集全体としての教訓に二重性を感じさせるものもあり、「なぜそう読ませるのか」書き手の真意を考えながら作品解釈を進めています。



▲休暇中には、実地踏査をかねて名所旧跡や歌枕を訪れることもある。写真は鳥取県の三朝(みささ)山(野本准教授撮影)。

身近な題材が多い説話集研究
情報を多面的に解釈する訓練にも

古典や古文という、日常とは切り離された神棚に供えられたようなものに思われがちですが、それを神棚から下ろしてきて普通の日常会話のように取り扱えないか、というのが私の研究の軸になっています。とりわけ説話集は誰が読んでも身近に感じられる題材が多く、まだ手あかのついていないテーマが細部に眠っている可能性を秘めています。また説話集研究そのものが、ひとつの情報に対して多方面から物事を考える訓練にもなると思います。

大学で研究を進めるにあたっては、「知りたい」「気になる」などの関心を持つことが一番の原動力になります。皆さんの内に芽生えた関心の種が健やかに成長していけるように、私なりに精一杯手助けしていきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小林 理正 准教授 KOBAYASHI Tadamasa

■研究分野
中古文学

関谷 由一 准教授 SEKIYA Yuichi

■研究分野
上代文学

野本 東生 准教授 NOMOTO Tosei

■研究分野
中世文学

南 陽子 准教授 MINAMI Yoko

■研究分野
近世文学

表現文化論講座

中国文化論研究室

中国文化論研究室では、中国の思想、言語、文学などをはじめ、中国および漢字文化圏に関する幅広いテーマを学習・研究することができます。多くの学生は、中国・台湾への短期・長期の留学を体験しています。また本研究室には、中国からの留学生も多く、相互に生の異文化に触れあい、学びあうことができます。

Lab.letters 教員からのメッセージ

吉田 勉 准教授

YOSHIDA Tsutomu

研究内容

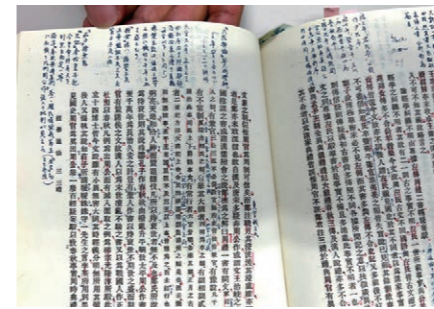
中国・清代の今文学派と呼ばれる人々を中心に、その儒家経典(経書)に対する解釈の特徴を研究しています。また、近代以降、経書がどのように捉え直されたかについても関心を持っています。



▲清代の今文学派(常州学派)の故郷、江蘇省常州を訪問。今文学派の開祖・汪存与の旧宅跡で撮影。

「微言大義」を追いかけて
中国思想の悠久の流れの中に

孔子は、子や臣下が父あるいは君主を弑するなどのやっけないことが世にはびこることを憂い、その教えを伝える目的で歴史書兼思想書である『春秋』を作ったと、孟子が書き残しています。この「明らかにやっけないこと」すなわち「大義」と対で語られる「微言」は天下統治の心得や方法を説いたものであり、「明らかにしがたし」と言われるようにその解釈が時代や学者の流派によって異なります。孔子の教えを孟子が読み解き、そして彼らが残した書物を清代の思想家たちがどう解釈したかを辿ってゆく。悠久の歴史を持つ中国の知の系譜を通して中国思想の壮大な流れを掴もうとしています。



▲何度も読み込んだ『經学通論』。句読点を赤字で記し、余白に関連情報を記入して「丁寧に読む」を実践する。

周囲の研究姿勢から染み込む
「丁寧に読む」系譜の一員に

私たち中国文化論研究室にも脈々と中国思想に分け入る知の系譜が受け継がれています。北大生だった私が現在の研究に没頭するきっかけになったのも、日本にはまだ訳本がなかった皮錫瑞の著書『三礼通論』の訳本を当研究室の先生たちが手づから編纂し残していったからにほかなりません。爆発的な人気分野ではないからこそ一人一人への指導が丁寧で、院生同士の交流も活発です。「資料を丁寧に読む」という研究上最も大切な姿勢も先生や先輩がたの日頃の研究ぶりを見ながら自然と学ばせてもらったように感じています。その伝統を今は私が皆さんに伝える番だと心して取り組んでいます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

近藤 浩之 教授 KONDO Hiroyuki

■研究分野
中国古代思想、易学思想史

田村 容子 教授 TAMURA Yoko

■研究分野
中国演劇、中国文学

熊 征 准教授 XIONG Zheng

■研究分野
中国古典文学、中国哲学

吉田 勉 准教授 YOSHIDA Tsutomu

■研究分野
中国思想史、清代の学術

表現文化論講座

映像・現代文化論研究室

映像・現代文化論研究室では、日本の近代・現代の文学全般、日本および世界の映画を中心として、広く現代の表象文化（アニメーション映画・マンガ・写真・サブカルチャーを含む）と思想を理論的・具体的に考究します。文学・映像・思想のいずれについても、現在の理論水準を追究し、現代世界に通用する最先端の研究を目指します。

Lab.letters 教員からのメッセージ

水溜 真由美 教授

MIZUTAMARI Mayumi

研究内容

「サークル村」を中心とする日本の戦後文化運動、堀田善衛・武田泰淳を始めとする日本の戦後文学・戦後思想、日本のフェミニズム思想、日本近代文学における女性労働者の表象等について研究しています。



▲1960年5月に休刊した「サークル村」。詩や短歌、エッセイの他に「往復書簡」や「内政干渉」というコーナーもあった。

炭鉱で暮らした人々の息吹を伝えるサークル活動

1950年代、国内の炭鉱では文学、合唱、演劇などの文化活動が盛んに行われ、地方色豊かなサークル誌も発行されていました。過酷な労働環境を世に訴えたいという炭鉱独特の題材も抱えつつ、活動内容は実に豊か。誌面からは当時を生きた人々の息吹が伝わってきます。

1958年には各地で活動するサークルのネットワーク化を目指して福岡県中間市で月刊誌「サークル村」が創刊。編集委員には谷川雁、森崎和江、上野英信らの知識人が名を連ねました。私がこうした研究を始めたのも、この森崎和江研究がきっかけ。出発地点を進んでいくうちに思わぬ道に分け行っていくのも文学研究の面白さなのかもしれません。



▲三井三池炭鉱宮原坑第2竖坑槽。社宅（棟割長屋）でのコミュニティが確立されていた。

生きた証言、豊かな自然 北海道で得た視野の広がり

私が東京から北海道大学に赴任してきたのは2002年のこと。かつての炭都である夕張や美唄、歌志内を訪れ、当時を知る方々の貴重なお話をうかがうことができました。そうした機会を通じて自分の中に育まれていったのは、「地方」という新たな視点。中央では見えてこなかった地元への愛着や生き生きと時を重ねてきた人々の歴史が、北海道の美しい自然とともに心にせまってきました。北海道に来たことで視野の広がりを持ったことは、人生の大きな収穫でした。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

応 雄 教授 YING Xiong

■ 研究分野
映像表象論

押野 武志 教授 OSHINO Takeshi

■ 研究分野
日本近代文学、表象文化論

水溜 真由美 教授 MIZUTAMARI Mayumi

■ 研究分野
日本近代文学・思想史、ジェンダー研究

川崎 公平 准教授 KAWASAKI Kohei

■ 研究分野
映像論、日本映画研究

言語科学講座

言語科学研究室

言語科学研究室では、言語の構造と運用に関して一般言語学と個別言語記述の立場から理論的、実証的、応用的な研究を行います。日本語（国語学・日本語学）、英語、フランス語・ロマンス諸語、ロシア語・スラブ諸語、韓国朝鮮語などを中心に、関連領域を含む多様な言語研究を高度に展開するための指導体制を整えています。

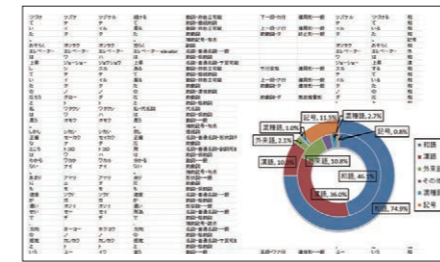
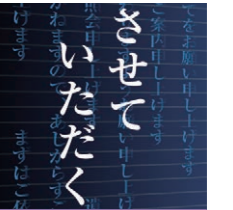
Lab.letters 教員からのメッセージ

加藤 祥 准教授

KATO Sachi

研究内容

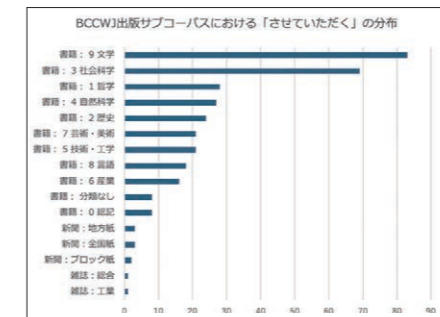
日本語コーパスを用いて現代日本語を研究しています。コーパスの構築や情報の付与により、主に日本語の書き言葉にみられる言語現象の分布や実態を調査しようとしています。近年は比喩表現の調査に注力しています。



▲「外来語を多用している」と思われがちな村上春樹の著書『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』（新潮社）の語種を解析。結果の円グラフを見ると外来語（緑色）は全体の1割にとどまる。

日本語の用例を整備し資源とする コーパス日本語学の世界

「鬼のような人」あるいは「うどんのような顔」という表現は誰がいつの時代にどういう意味で使い、どのような媒体にどれくらいの頻度で出現していたのか。コーパス日本語学では、日本語の用例を集め関連する情報を紐づけることで資源として整備し、気になる現象を調査します。言語を情報として処理するために無限の工事を続ける世界です。研究目的に応じてリッチな情報の宝庫になっていくコーパスは、“検索の時代”である今を映す鏡のようなもの。日本語という言葉における謎「いつからその意味に?」「頻繁に使われ始めたのはいつ頃から?」「時代を横断して検索するとどんな傾向が見えてくる?」の解を未来に伝えてくれます。



▲「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」の出版サブコーパスで「さしていただく」を検索。ジャンルは「文学」と「社会科学」がトップ2を占めていた。

オリジナルの調査設計を考え 数字に踊らされない人になる

ミステリ小説にはどういった表現が頻出するか、ライトノベル特有の言い回しはないか。関心を持った研究テーマの量的な調査にはコーパスが有用です。既存の各種コーパスに新たにどのような情報をプラスしていくか、あるいは自ら新しいコーパスを構築するか。問題を整理し、自分なりの調査を設計する過程では、既存ツールの“ユーザー”であることを超え、目的の解明のためにデータを使うという思考を身につけてほしいと考えています。検索結果を見るだけでは調査は終わりません。数字だけに踊らされず、「実際はどうなっているのか」を探しに行く。社会においても大切な視点が身につきます。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

李 連珠 教授 LEE Yeonju

■ 研究分野
言語学、韓国語学、音韻論

伊藤 孝行 教授 ITO Takayuki

■ 研究分野
国語学、日本語教育

加藤 重広 教授 KATO Shigehiro

■ 研究分野
言語学、日本語学、語用論

葛 清行 教授 TSUTA Kiyoyuki

■ 研究分野
国語学、文献学、歴史言語学

野村 益寛 教授 NOMURA Masuhiro

■ 研究分野
英語学、認知言語学、意味論

藤田 健 教授 FUJITA Takeshi

■ 研究分野
フランス語学、ロマンス語学、統語論

加藤 祥 准教授 KATO Sachi

■ 研究分野
日本語学、コーパス言語学

菅井 健太 准教授 SUGAI Kenta

■ 研究分野
ロシア語学、スラブ語学

スラブ・ユーラシア学講座

スラブ・ユーラシア学研究室

スラブ・ユーラシア学研究室は、ロシア・中央ユーラシア・東欧のさまざまな地域を総合的に研究する地域研究を学ぶ研究室です。研究対象地域の言語と、多彩な分野の専門知識・方法を身につけ、他地域との比較も視野に入れながら、先端的な研究を行うことができます。現地調査や国際学会での報告も奨励・支援しています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

野町 素己 教授

NOMACHI Motoki

研究内容

- 1.スラブ諸語の類型的な文法研究
- 2.言語接触の諸問題(特にバルカン半島の言語状況、また南スラブ諸語の標準語成立の過程など)
- 3.少数話者言語とアイデンティティ



▲カシュープ語の母語話者である4姉妹、その姪(左端)と。「姉妹でも世代によって言葉の感覚に微妙な違いがあるところが面白いですね」と野町教授。

言語の接触から生まれる 多様な言語構造の変化に着目

「文化のモザイク」と呼ばれる東南ヨーロッパでは政治や社会の変動にともない様々な言語が接触し、多様な言語構造の変化を繰り返してきました。例えば、セルビア語は方言差が大きく、同じ国内でも時に違う言語と思われるような違いが見られます。では、なぜこういうことが起きたのか、タイプの違う言語構造が共存するまでの歴史的な背景や変化の道のりを解明していきます。

今最も注目している言語は、長年ポーランド語の方言として扱われてきたカシュープ語です。近年ではポーランド語とカシュープ語が併記されている街頭表示も出てきました。現地の母語話者たちの協力を得て、貴重な言語データを収集しています。



▲2018年冬期国際シンポジウム「帝国・ブロック・連邦にそびえる言語 1918-2018」の参加者。言語学者に加え、言語を研究対象とする歴史学、政治学、社会学などの専門家がそれぞれの視点から積極的に議論しました。

数々の国際会議成功の実績と 優秀な人材でスラブ研究を推進

今日のスラブ諸語研究は、国際化と学際化が急速に進んでいます。このような状況のもと、私は2008年の着任以来、多数の国際学会やテーマ別の国際研究集会を組織してきました。研究対象はスラブ系諸言語にとどまらず、また領域も文法研究、地域言語学、社会言語学、言語ナショナリズム、少数話者言語研究など多岐にわたります。私たちが北海道大学から発信するスラブ諸語研究は国際的にも高い水準にあり、本学は当該分野において、国際的にも存在感のある研究拠点の一つです。世界トップクラスの研究者が参加する研究集会を継続的に成功させてきた実績と、優れた研究スタッフを擁する環境は、北海道大学におけるスラブ研究の大きな強みです。

本講座では、学際的な研究・教育を推進しており、歴史学、経済学、政治学、文学など隣接分野の研究者との交流が日常的に国際レベルで行われています。そのため、多様な知的刺激に満ちた研究環境が形成されています。スラブ語研究を志す方には、ぜひこの環境の中で、地域全体を視野に入れながら言語を捉え、一つの実験や言語に限定されない複眼的な視点を養っていただきたいと思います。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

青島 陽子 教授 AOSHIMA Yoko

■研究分野
中東欧・ロシア近現代、ロシア帝国統治構造

宇山 智彦 教授 UYAMA Tomohiko

■研究分野
中央アジア近代史・現代政治、比較帝制史

仙石 学 教授 SENGOKU Manabu

■研究分野
中東欧比較政治、政治経済学、福祉政治

長縄 宣博 教授 NAGANAWA Norihiro

■研究分野
旧ソ連地域のイスラーム、ロシア近現代史

野町 素己 教授 NOMACHI Motoki

■研究分野
言語学、スラブ言語学

服部 倫卓 教授 HATTORI Michitaka

■研究分野
スラブ・ユーラシア経済論

岩下 明裕 特任教授 IWASHITA Akihito

■研究分野
ロシア・CIS外交、境界研究

安達 大輔 准教授 ADACHI Daisuke

■研究分野
文学、表象・身体・メディア、ロシアの言語文化

諫早 庸一 特任准教授 ISAHAYA Yochi

■研究分野
中央ユーラシア前近代史、
モンゴル帝国史、科学史

大西 富士夫 特任准教授 OHNISHI Fujio

■研究分野
国際政治、北極域研究、地域研究

李 優大 講師 RI Yudai

■研究分野
ロシア中東関係史、カスピ海地域の国際関係

アイヌ・先住民学講座

アイヌ・先住民学研究室

アイヌ・先住民学研究室では、文化資源、生活環境、経済社会開発、法制度等々、先住民族を取り巻く様々な課題について研究できます。考古学・歴史学・言語学・文化人類学・博物館学・法学等の観点からアイヌ・先住民学を体系的に学ぶための指導体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

落合 研一 准教授

OCHIAI Ken-ichi

研究内容

日本国憲法の規範的枠組やアイヌの人々の具体的なニーズを踏まえたアイヌ政策の可能性について、アメリカ合衆国のインディアン法制度や台湾の原住民族法制度などを参考にしながら、研究しています。

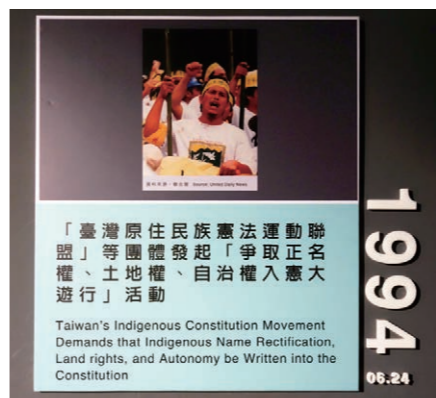


▲先住民族を抱える諸外国の法制度や先住民政策も調査しています。写真は、訪問したスミソニアン国立アメリカインディアン博物館(ワシントンD.C.)。

アイヌ・先住民研究に 法学的視点でアプローチ

北海道大学アイヌ・先住民研究センターに所属し、憲法学を専攻している私の立ち位置は、全国でもきわめて稀だと思います。従来は人文学が中心であったアイヌ・先住民研究に、法学・政治学の視点を加え、学問領域横断的に理解を深めていく。その一端を担っていると考えています。

2019年4月、「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律案」(通称「アイヌ施策推進法案」)が国会で可決され、市町村という基礎自治体が、地域のアイヌの人々の意見を踏まえながらアイヌ施策を実施していくことになりました。法律は枠組であり、肝心なのはその運用です。現実的妥当性を踏まえながら、運用の行方を見守っています。



▲台湾の原住民族政策も参考になります。台湾では、正名(差別的呼称撤廃)運動を経て、原住民族という法的身分が中華民国憲法に明記されました。写真は、国家人権博物館(台北市)での正名運動に関するパネル展。

北大だから学べる先住民法学 目に見えない法の輪郭を知る

「先住民族」は、比較的新しい政治的概念であり、その本質を理解するには国際社会や各国の法制度を学ぶ必要があります。「先住民法学」は、北海道大学だからこそ学ぶことのできる新しい学問領域。アイヌ・先住民に関心のある学生とともに内容を深めていきたいと考えています。

日常生活は、実は様々な法制度でできています。車や歩行者が赤信号で止まらなければならないのも、道路交通法にそのように定められているから。法律は言葉でできているので、目に見えなければ手触りもありません。その言葉の意味を自ら学ぼうとしない限り、私たちの前に立ち現れません。皆さんにも、社会に出る前に一度は法の輪郭に触れてほしい。そう期待しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

加藤 博文 教授 KATO Hirofumi

■研究分野
先住民考古学、先住民文化遺産、シベリア人類学

北原 モコツウナシ 教授 KITAHARA Mokottunashi

■研究分野
アイヌ民族の宗教、アイヌ語、口承文芸、ジェンダー、マジョリティ研究

山崎 幸治 教授 YAMASAKI Koji

■研究分野
アイヌ物質文化、文化人類学、博物館学

落合 研一 准教授 OCHIAI Ken-ichi

■研究分野
先住民法学、憲法学

丹菊 逸治 准教授 TANGIKU Itsuji

■研究分野
口承文芸論、アイヌ語、ニグフ語

平澤 悠 准教授 HIRASAWA Yu

■研究分野
先住民考古学、アラスカ考古学、ベーリング研究

蓑島 栄紀 准教授 MINOSHIMA Hideki

■研究分野
アイヌ史、北東アジア民族史、日本古代史

日独グリーフケア比較で留学 悔いのない修士課程を満喫

人文学専攻 宗教学インド哲学研究室 修士課程

佐久間 雪音 SAKUMA Yukine

死との向き合い方は、涙の数だけ存在する。
死生学に関心を寄せる佐久間雪音さんは、
念願のドイツ留学で現地の喪カフェに参加。
グリーフケアの日独比較に取り組みました。

「世界を動かす」文系人材に
宗教というレンズで世界を観察

高校時代に国語の先生がおっしゃった「世界を動かすのは文系だ。技術は理系人材が作り、それを動かす制度やルールを文系人材が担う」は、今も忘れられない言葉です。この一言と北大のイベントで出会った先生方の気さくに惹かれて北大文学部に入学しました。

指導教員は宗教学や死生学がご専門の宮嶋俊一先生です。入門的な授業で「宗教学は宗教というレンズを通して世界や社会、歴史を見る学問です」と解説され、興味がわいて宗教学インド哲学研究室に。研究すればするほどわからないことが増え、それを追いかけて現在に至ります。死生学の研究テーマの中には、死別などの悲しみや喪失を経験した方々を援助する「グリーフケア」があり、卒業論文は「日本の医療現場における遺族ケアの実践とその課題」について執筆しました。

留学したい！準備期間込みで
大学院進学を計画

入学した2020年はコロナ禍の影響で、授業も生活もオンライン一色に。大学生らしい時間がステイホームで過ぎていくのが残念で、このまま卒業するのは心残りがありすぎる。グリーフケアのさらなる深掘りと夢だった留学を実現したくて修士課程に進学しました。留学までの準備は1年がかり。使いたい制度の申し込みやハイデルベルグ大学とのやりとりなどメールの返事に追われて焦ったこともありましたが、留学中は現地の喪カフェに参加するなど充実した時間を過ごすことができました。

帰国後は母親が先に取り組んでいたファイナンシャルプランナーの勉強を始めて、私とそのバトンを受け継ぐことに。大学で開催された合同企業説明会では大学で経験した全てのことが自己PRになり、予定通り企業就職へと顔を上げて進んでいけそうです。

PROFILE

2001年北海道生まれ。北海道大学文学部卒業後、北海道大学大学院文学院修士課程に進学。グリーフケアの日独比較のため、修士1年次の9月からドイツ・ハイデルベルグ大学に交換留学し、翌年7月に帰国。8月から順次、国内の喪カフェ聞き取りと就職活動を始めた。修了後は企業就職予定。



ドイツ語集中語学コース、フィールドワーク、
帰国後の発表・調査継続

大学院キャリアパスモデル <佐久間さんの場合>

学部3年のとき、オープンキャンパスの在学生スピーカーを務めた佐久間さん。そこで同じ文学部生が語った海外大学院留学の体験談を聞き、「自分も!」と気持ちが固まったという。スケジュールから「やりたいことを詰め込んだ」充実ぶりが見えてくる。

HISTORY OF RESEARCH 現在までの研究ヒストリー <修士課程1年の場合>

2024年 4月	北大と北海学園大学の先生方を中心に構成された宗教研究会に参加。宗教学、死生学、神学など様々な研究をされている先輩方の発表を聞き、刺激を受ける。	 コース修了後にクラス全員でお祝いのランチタイム。
6月	ハイデルベルグ大学への交換留学に向けて事前の入学手続きに追われる。「とにかく締切順に返事を出す。出し忘れないように気をつけました」。	
9月	ドイツのハイデルベルグ大学に留学 ドイツへ渡航。授業開始前に1カ月間のドイツ語集中語学コースに参加。	 小学1年生から始めた松清館流空手は黒帯の腕前。夏・冬休みに子どもたちに教えに行くことも。ドイツでも週に一度2時間みっちり練習した。
10月	冬学期スタート。メンタルヘルスや宗教学の授業を英語で受講する。大学のスポーツセンターで空手の練習にも参加し始める。	
2025年 3月	それぞれの悲しみを抱えた人々が集まる場所にグリーフケア調査を依頼。「調査依頼文をルームメイトのドイツ人にチェックしてもらいました」。地元ホスピスの喪カフェでフィールドワークをさせてもらうことに。	
4~6月	毎月喪カフェでボランティアをさせてもらいながら会の様子を調査。参加者とランチや散歩に行くことも。7月に帰国。	 喪カフェ参加者たちも日本からの留学生に興味津々。「日本人や自身の宗教観などを聞かれ、日頃は意識しなかったそれらの答えを言語化する過程が楽しかったです」。
10月	北大キャリアセンター主催の企業研究セミナーに参加。金融系企業のインターンシップに申し込み(のちに同社から内定が出る)。	
2026年 3月	宗教研究会で留学中に調査した喪カフェについての研究発表。表題は「悲嘆理論とグリーフケアの実践—ドイツの喪カフェを例に—」。この後、国内の喪カフェ調査を通して日独比較論をまとめあげていく。	

Weekly Schedule <修士課程1年:1学期の場合>

留学前に修士課程修了に必要な単位をほぼ取得。帰国後はグリーフケア研究のかたわら、アイヌ語やフランス語など興味を持った授業に出たり、TA業務に従事。この他オンデマンドで大学院必修科目や大学院共通授業科目「キャリアマネジメントセミナー」を受講した。

MON	授業がない日は終日研究室で自習 (FP、秘書検定、TOEIC、ドイツ語など)
TUE	大学院授業「宗教学特殊講義」(ドイツ語や英語の文献・論文を輪読)
WED	全学教育科目「思索と言語」・学部授業「宗教学」のTA業務
THU	大学院授業「宗教学特別演習」「インド哲学仏教学特殊講義」
FRI	大学院授業「宗教学特別演習」(死生学やグリーフケアについて)

文学院の「文」はHumanity

『日本ではあまり表に出て語られることがないグリーフケアですが、研究を始めると同じ文学院の中でも社会学や文化人類学などいろんな異分野と結びついていることが見えてきました。そう考えると、文学院の「文」は人間に関するすべてのこと、Humanityを意味しているように感じます』

※本項は2026年5月現在のデータで構成しています。

高校まで理系だった佐久間さん。教師の一言で文系に開眼し、「あなたのやりたいことを」という家族の応援も力になり大学院へ。誰にでも訪れる死別や喪失を研究テーマに据えた。

国際的な人間科学研究をさらに高めへ

Division of
Human Sciences

人間科学専攻

人間と社会に関する
総合的な学びに
科学的にアプローチ。

実験、実習、フィールドワーク等、
多彩な研究手法でアプローチ

■ 主な講義題目

心理学研究室	● 認知行動科学の問題と方法 ● 感覚・知覚研究 ● 認知神経科学の問題と方法 ● 身体運動の心理学
行動科学研究室	● 現代社会心理学の動向 ● 比較認知科学の最前線 ● 行動科学における実験調査分析 ● 数理モデルの理論と方法 ● 社会心理学 ● 集団力学の理論
社会学研究室	● インターセクショナルリティ概説 ● 社会変動の新潮流 ● 東アジアにおける社会構造 ● 共生社会研究の応用
地域科学研究室	● 地域科学研究法の基礎 ● 環境社会学研究 ● 野生動物管理研究 ● 空間・場所論

■ 修士・博士研究テーマ例

心理学研究室	○ 修士 大学生の日常生活における音楽聴取による感動とチルの検討 身体化された偽手への視覚刺激が触覚の空間識別精度に及ぼす影響 ● 博士 音声の自己認識とマスクの有無などの外部要因が音響特性と魅力評価に与える影響
行動科学研究室	○ 修士 Does relational mobility lead to social differences in positive and negative reputations? The examination in our daily lives 全員一致による話し合いの集合知—確信度の重みづけ集約に基づく理論・実証的検討— ● 博士 協力及びその文化差の起源を探る—文化的集団淘汰理論に基づく理論・実証的検討—
社会学研究室	○ 修士 中国官製ナショナリズム主導下における大衆ナショナリズムのあり方—SNS におけるロシア・ウクライナ戦争報道の受容を例に— 中国視覚障がい女性の結婚・出産・育児における生活実態調査—日中比較の視点を通して— ● 博士 学力・認知能力と教育達成・きょうだい構成・学校教育投資・遺伝要因に着目して—
地域科学研究室	○ 修士 都市と農山漁村をつなぐ取り組みが人々にもたらす影響—村おこしボランティアを事例に— 慢性砒素中毒による被害の不可視化—中国湖南省石門県鶴山村を事例として— ● 博士 都市における野生動物問題の環境社会的解決に向けて—札幌市郊外のヒグマ出没問題における住民参加を事例に—



他の修士・博士論文の研究テーマはウェブサイトにてご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/master-doctor-thesis>

心理学講座

人や動物の認知活動は如何に行われ、脳はどのように働いているのか？
当講座では、このような認知心理学の問題をテーマとした教育・研究を行って
います。具体的には、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達など、
長い歴史を持つ分野における心的過程の解明のみならず、脳科学、音楽、
魅力など、比較的新しい学際的な分野における現象やそのメカニズム
についての理解を進めたり、産業応用にも取り組んだりしています。全教
員が連携を取りながら、専門家・研究者の育成を行っています。



●心理学研究室

行動科学講座

社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・神経科学・比較認知科学など人間・社会科学諸領域で生み出された理論と方法を融合させ、「心と社会のマイクロ-マクロ関係」、すなわち人や動物の心とそれを取り巻く社会との相互影響過程に関する先導的研究を進めています。協力行動の適応的・神経科学的基盤、文化の生成と伝達、社会的意思決定、社会構造と心理の関連といった理論研究から、社会問題の解決や公共的意思決定といった実社会対応型まで、幅広い研究を行っています。



●行動科学研究室

社会学講座

社会がどのような構造をもとにどう変化しているかを個人との関係から記述し
因果的に説明すること、どのような社会を目指すべきかを規範的に構想する
こと、これらの基礎となるデータを社会調査によって正確に収集し分析でき
ることを目指しています。そのため大学院生は、各自の関心を中心としなが
ら、社会学の古典的な理論から最新の仮説まで、質的・量的な社会調査法
とともに幅広くそして深く学びます。海外の大学への留学を支援するととも
に、必要に応じて専門社会調査士資格を取得できる体制を整えています。



●社会学研究室

地域科学講座

地域科学講座では、現代の地域社会が抱える多様な問題について、人間
社会と自然環境の両面から総合的に研究を進めています。地域社会学・人
文地理学・社会生態学の3分野を中心とした学際的なアプローチによって
地域の実践的課題に取り組んでいます。各分野の基礎的理論からフィール
ドワークの技法、分析の方法、実社会への応用までを、野外実習を交えな
がらマン・ツー・マンで指導することで、自分で問題を発見し、自分で調べ、
解決策を探るという社会で必要とされる能力の養成を目指しています。



●地域科学研究室

心理学講座

心理学研究室

心理学研究室では、感覚・知覚、注意、記憶、学習、発達、脳科学、音楽、魅力などに関するオリジナルな実証研究を各学生が計画・遂行し、その成果を論文として発表できるような研究者や、その過程で身につけた技能を職場で生かせるような人材を育成するための指導体制を整えています。

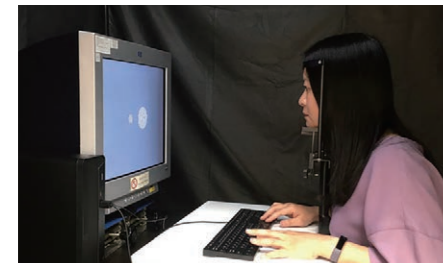
Lab.letters 教員からのメッセージ

金子 沙永 准教授

KANEKO Sae

研究内容

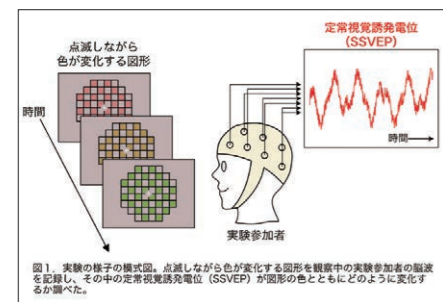
ヒトがどのように世界を見ているのか、特に空間的・時間的な文脈を利用した視覚情報処理の仕組みに興味を持って研究を行っています。主に心理物理学的手法を用いた実験的研究をしています。



▲心理物理学的な実験では、画面に出てくる様々な色や大きさの図形に対する細かな判断を記録し、主観的な見え方を測定する。

対象と感覚と体験で構成される「見え」の不思議を追いかけて

私たちが日常生活で享受している「見え」は、外界の刺激とそれを受け取る感覚、そこから私たちの意識に上ってくる「こう見えた」という主観的な体験の三点で成立します。「見え」にまつわる不思議は多種多様で、道路のタイル模様が動いているように見えたり、同じ対象物を見ているのに友達とは色の感じ方が違ったり、日常のそこかしこに「なぜ、こういうことが?」という疑問が潜んでいます。この誰もが当事者として身近に体験できるところが「見え」の不思議の面白さ。そこから自分なりの仮説を立て、実験で得たデータを解析した先には自分だけがたどり着く新たな発見が待っています。そこを目指して多角的な実験を行い、「見え」の構造を明らかにしようとしています。



▲神経科学的なアプローチでは脳波測定の実験を行い、色ごとに異なる脳活動の強弱を調べた。

活発な議論や共同研究に期待
将来に生きてくる交流の歳月に

北海道大学の心理学研究室には視覚の研究をされている先生が多く、活発な議論や共同研究ができる理想的な環境です。学内にある「人間知×脳×AI研究教育センター」は脳と心に関する学際的な研究のプラットフォームであり、私自身、異分野の方々との連携を楽しみにしています。私の学生時代はたまたま指導教員とマンツーマンで教わる環境にあり、実験ノウハウや「まずは手を動かしてみる」という研究の基本姿勢など、独り立ちする時に必要なさまざまな経験を積み重ねてもらいました。その時の交流が今の自分を支えてくれていることを思うと、これから出会う皆さんにも将来そう思ってもらえるような、実りの多い日々を送っていきたくと考えています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

小川 健二 教授 OGAWA Kenji

■研究分野
認知神経科学(特に運動学習や社会認知)

河原 純一郎 教授 KAWAHARA Jun-ichiro

■研究分野
認知行動科学(注意、記憶、魅力、顔、産業応用)

金子 沙永 准教授 KANEKO Sae

■研究分野
知覚心理学(とくに視覚、錯視)

田辺 弘子 准教授 TANABE Hiroko

■研究分野
認知行動科学(運動制御、身体表現、スポーツ心理)

森本 琢 助教 MORIMOTO Taku

■研究分野
認知心理学(クロスモダル情報処理過程、記憶、心的イメージ)

行動科学講座

行動科学研究室

行動科学研究室は、社会心理学・進化心理学・文化心理学・行動経済学・比較認知科学・神経科学など人間・社会科学諸領域の理論と方法を融合させ、人や動物の心と社会との相互影響過程に関する先導的研究に取り組みます。専門に特化した内容はもちろん、直接の指導教員以外の教員からも深く幅広く学べる教育体制を整えています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

大沼 進 教授

OHNUMA Susumu

研究内容

環境問題の協力行動促進や合意形成・公共的意思決定のプロセスデザイン。



▲札幌市第2次環境基本計画策定時の市民参加ワークショップ風景。

ごみ処理から目指す社会像とは?
合意形成に至るプロセスを重視

私の現在の研究キーワードは「大規模社会における協力の実現」です。ごみ有料化を例に挙げると、「有料が是非か」だけを問うのではなく、ごみ処理を通じて目指す理想の社会像や問題意識を市民が共有できているかを考える。広報の方法やディスカッションの場づくりなど、さまざまな個人で構成される集団が「合意形成」に至るまでのプロセスを重要視しています。

研究の手法は実際にごみステーションに足を運んだりする現地調査と、大人数でのロールプレイングゲームを教室に再現する実証実験の二本立て。双方向からアプローチする社会心理学ならではの面白さがあります。



▲合意形成を巡るゲーミング:役割になりきって交渉する。

国際色豊かな研究者たちの
クロスロードで大きく成長

一つとして同じものがない社会の現場にはそれぞれのセオリーがあります。これまでの研究を通じて「いいセオリーはどの現場にも通じる」ことがわかり、どの現場にも耐えられるセオリーこそが本物であると確信しています。もちろん何が本物かはそう簡単には見えてこない。「わからないを楽しむ」好奇心で日々現場と向き合っています。

行動科学講座は、若手からベテランまで国際色豊かな研究者たちが文系/理系の壁を乗り越えて行き交う学際研究のクロスロード。互いに忌憚のない意見交換で刺激しあう伝統が息づいています。アンビシャスな研究者には幸せな環境であり、「世界に通じる人材育成」を有言実行しています。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

大沼 進 教授 OHNUMA Susumu

■研究分野
環境社会心理学、リスクガバナンス

高橋 泰城 教授 TAKAHASHI Taiki

■研究分野
行動科学、神経経済学

高橋 伸幸 教授 TAKAHASHI Nobuyuki

■研究分野
社会心理学、実験社会科学

竹澤 正哲 教授 TAKEZAWA Masanori

■研究分野
社会心理学、適応的意思決定、文化進化論

結城 雅樹 教授 YUKI Masaki

■研究分野
社会心理学、文化心理学、社会生態心理学

瀧本 彩加 准教授 TAKIMOTO Ayaka

■研究分野
比較認知科学

中島 晃 助教 NAKAJIMA Akira

■研究分野
応用統計学

社会学講座 社会学研究室

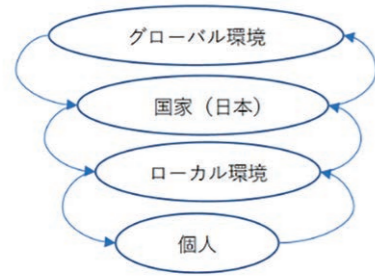
社会学研究室では、現代宗教・アジア地域社会・ウェルビーイングなどに関する研究、社会的排除・福祉や医療・質的調査法に関する研究、社会階層・学歴・家族・地域・労働市場などの社会的な不平等および社会意識に関する研究、社会運動・ナショナリズムに関する研究を行っています。

Lab.letters 教員からのメッセージ

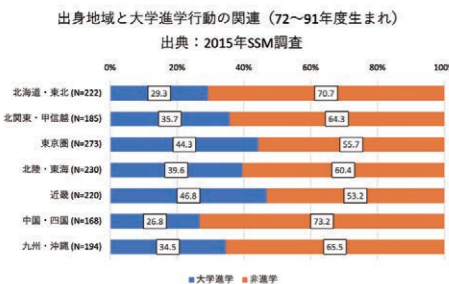
平松 誠 講師
HIRAMATSU Makoto

研究内容

1. 出身地域による教育機会の不平等に関する研究
2. 居住地域による社会意識形成メカニズムに関する研究
3. 量的データ・地図データを活用した都市社会学的研究



▲ネット社会の今、「都市」の概念や個人と都市の距離も変化してきた。個人が地域を選び、作り変える新たな「地域」像も浮かび上がっている。



▲教育機会の不平等に関するデータの一つ(2015年SSMデータ管理委員会の許可を得て使用)。参照するデータの組み合わせ次第で研究のオリジナリティーが生まれる。

従来の都市像から距離を取り 地域の特性をとらえ直す

社会学の中でも「都市・地域社会学」は、社会学と地理学の間に位置するような学問だと考えています。「都市」や「地域」という視点を持つことで東京や大阪に象徴される大都市中心の考えから距離を取ることができ、平均的な都市像からのズレを対象地域の特性をとらえ直すことができます。そこに面白みがあると感じています。そう考えると、札幌のような200万人都市から人口数百人の村までを内包する北海道は、都市・地域社会学の理想のフィールド。「雪」や「クマ」等の表層的なイメージの奥にどのような時間や空間が存在するのかを、データを通して明らかにしてみませんか。リアルな調査から地域の正体が「大都市」の金太郎飴ではないことが見えてきます。

コンタクトゾーンで 打ち込んだ分だけ成果を得る

全国から人が集まる北海道大学は、社会学で言う「異質な他者が出会う場=コンタクトゾーン」です。私自身、出身地域の北陸から関西に進学したときはカルチャーショックを幾度も実感し、この時の体験が現在の研究に繋がっています。同様に、多様性の地・北海道にも道内出身者と道外組が共に成長できる刺激的な環境が広がっています。大学院でさらに飛躍する前に過ごす学部4年間は、皆さんの強靭なバネを作る大切な期間です。社会学、語学、データ分析などの好きなことに真面目に打ち込めば、打ち込んだ分だけ必ず身につきます。真面目に学ぶことを恥ずかしがらず、北海道大学の多彩なリソースを活用して多様性理解につながる知性を一生懸命鍛えていきましょう。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

樋口 麻里 教授 HIGUCHI Mari

■ 研究分野
社会的排除論、福祉・医療社会学、ジェンダー論、家族社会学、国際比較、質的調査法

平澤 和司 特任教授 HIRASAWA Kazushi

■ 研究分野
社会学 (特に教育、家族、社会階層)、社会調査法

伍 嘉誠 准教授 NG Ka Shing

■ 研究分野
ナショナリズム研究、社会運動論、宗教・文化社会学、東アジア研究

平松 誠 講師 HIRAMATSU Makoto

■ 研究分野
都市社会学、地域社会学、計量社会学

中村 聖 助教 NAKAMURA Hijiri

■ 研究分野
教育社会学、行動遺伝学、きょうだい研究

地域科学講座 地域科学研究室

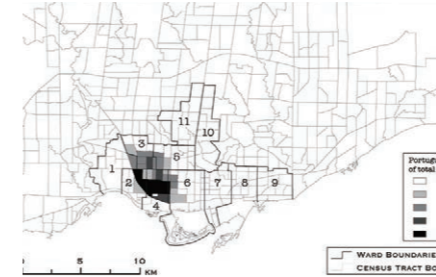
地域科学研究室では、フィールドワークを主体として現代社会が抱える多様な地域問題について取り組みます。地域社会学・人文地理学・社会生態学という分野をベースとして、多面的・学際的な議論を交わすなかで社会や環境への理解と考察を深め、問題の解決を図ります。

Lab.letters 教員からのメッセージ

高橋 昂輝 准教授
TAKAHASHI Koki

研究内容

日本と北アメリカをフィールドに、空間・場所と社会・政治の関係を研究しています。これまでの主な研究テーマは、1) 国境を越えたヒトの移動、2) 移民エスニック空間の展開、3) ジェントリフィケーションと都市政策の影響です。現在では、観光、モビリティ、国内の移住現象、国土政策に関する研究課題にも取り組んでいます。



▲トロント市におけるポルトガル系住民の分布(1981年)に旧トロント市の選挙区割(1978~85年)を重ねた地図。これまで特定の空間への集中居住が、当該の選挙区における同胞議員の選出に寄与してきた。しかし、近年の都市再編とともに、ポルトガル系の居住分布は分散化し、こうした都市空間と政治との関係にも変化が見られ始めている。(Takahashi (2022) p.1323, Figure 2より転載)



▲毎年6月、トロント市のポルトガル系移民地区で開催される「ポルトガル・デイ・パレード」。移民一世から三世・四世まで、世代を超えて自身のルーツを再確認する機会となっている。この時空間のもと、エスニシティが強く表れ出た、テンポラな場所が生成される。(撮影 高橋昂輝准教授, 2014年)

移動と社会関係から まちの輪郭を浮き彫りに

人々の移動と社会関係は、まちの営みを紡ぎ出す重要な構成要素です。私はこれまで、特に国内外における移民・移住者のコミュニティと彼・彼女らを取り巻く社会関係に注目してきました。例えば、カナダや日本で暮らす移民・移住者は、現地で生まれ育った人々と化学変化を起こし、受入社会をアップデートさせながら、独自のコミュニティをつくり上げていきます。背景の異なる多様な主体が相互作用し、それを活力としながら、まち・地域が発展していくのが理想ですが、実際、その過程では、差別・排除・軋轢などといった残念な現実が認められることもあります。私の研究では、こうした内容を含む社会地理学的な研究課題について、国勢調査などを用いた定量的なデータ分析をとり入れながら、主にフィールドワークに基づく定性的な分析によってアプローチしています。地域のメインストリームからこぼれ落ちる声を掘り上げ、目を向けられてこなかった課題を浮かび上がらせることを試みています。これにより、まちのリアルな輪郭を浮き彫りにし、包摂的でよいまちづくりへの貢献を目指しています。

まちの深部をみる目を育み、 対人面でも豊かに成長

この研究の面白さは、研究室とフィールドを繰り返し行き来し、現地でいろいろな立場の人たちから話を聞いていくうちに、それぞれのまちや地域が持つ「懐」のような一つの深部に突き当たる経験ができることです。そうした経験を積んでいくと、皆さんが見知らぬまちを歩いたときにもまた、観光パンフレットではわからない新たなまちなみが立ち上がります。インタビュー時には、それぞれが異なる立場や考えを持つ人たちと同時に接する機会もあります。実践を通じて「多様なものの見方」を習得できる点も、大きな魅力です。本州とは異なる背景や歴史を持ち、社会地理学的に取り組む機会があるこ北海道で、皆さんにも、オリジナルな視点でまちを読み解く面白さを共有していきたいです。

他の教員のメッセージはウェブサイトにてお読みください。

教員紹介

橋本 雄一 教授 HASHIMOTO Yuichi

■ 研究分野
都市地理学、地理情報科学 (GIS)

上野 真由美 准教授 UENO Mayumi

■ 研究分野
野生動物管理学、個体群生態学、鳥獣行政論

高橋 昂輝 准教授 TAKAHASHI Koki

■ 研究分野
社会・文化地理学、都市研究、移民研究、北米地域研究

寺林 暁良 准教授 TERABAYASHI Akira

■ 研究分野
環境社会学、地域社会学、自然資源管理

寺田 千里 助教 TERADA Chisato

■ 研究分野
保全生態学、環境教育学、野生動物管理



大規模な社会現象における人々の心理的メカニズムへの強い好奇心から、社会心理学を志した竹西さん。「北海道に送り出してくれた家族に研究業績を報告して喜んでもらえることも励みになっています」。

「知」の土壌豊かな環境で 行動科学研究の栄養を蓄え成長中

人間科学専攻 行動科学研究室 博士後期課程

竹西 海人 *TAKENISHI Kaito*

北海道暮らしと同時に始まった研究者キャリアが年々成長の一途をたどる竹西海人さん。「集団における意思決定」に関する研究に没頭する日々を公開してもらいました。

大学祭での実体験を機に 集団の意思決定研究に傾倒

広島での学部生時代に大学祭実行委員を務めたときのことです。委員の間で意見が分かれ、結果的に少数派の意見が全体の意思決定を左右したという経験をしました。そのとき思ったのは「どうすれば集団は最適な選択をすることができるのか」。これを学術的に解明したくて、進化・適応論の視座から数理モデルを用いて人間行動を解析する竹澤正哲先生の行動科学研究室を志望しました。

修士受験対策は事前に研究室を訪問し、先生や先輩たちの説明から単なる知識の多寡ではなく大学院生として研究遂行能力が問われていることを把握。学問的系譜を築かれた山岸俊男先生や亀田達也先生の著作・論文を精読し伝統的な知見を整理するかたわら、公開中の過去問全てに回答し、どのような質疑にも自分の言葉で論理的に説明できるまで理解度を深めていきました。

伝統の木曜「共通院ゼミ」や CHAINで自分をアップデート

人はなぜ、多数決によらず手間や時間をかけて全員一致の結論に到達するまで集団で話し合うのでしょうか。私自身は「全員一致を目指すプロセスは、集団のパフォーマンスを最大化させる契機となりうるのではないか」という問いを立てて研究に取り組んでいます。

行動科学研究室では毎週木曜に全教員と学生が集う「共通院ゼミ」を開催。専門外の参加者も納得できる説明力やとっさの応答力を鍛える場になっています。大学の関連組織である「人間知・脳・AI研究教育センター」(CHAIN)では、哲学的な問いかけと最先端の科学的手法を融合する新たな視座が磨かれます。こうした領域が異なる他者と開かれた議論の場があることで独りよがりの思考に陥ることなく、常に自分をアップデートできる北大の豊かな研究環境を最大限に享受しています。

PROFILE

2001年広島県生まれ。広島修道大学健康科学部心理学卒業後、北海道大学大学院文学院修士課程に進学。集団の意思決定をテーマに研究プロジェクトを開始。修士1年次に日本人間行動進化学会第17回大会若手発表賞、2024年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞を受賞。2026年4月から博士後期課程に進学。日本学術振興会特別研究員DC1に採用。



数理モデルを使ったシミュレーションと
集団合議実験、学会発表、後輩支援

大学院キャリアパスモデル <竹西さんの場合>

研究は数理モデルを使ったエージェント・ベース・シミュレーションから始まり、そこで得られた仮説をもとに集合合議の実験フェーズへと移っていく。北大の多様な制度を活用し、学会にも積極的に参加。修士1年次に早くも若手対象の賞を受賞し、弾みをつけていく。

HISTORY OF RESEARCH 現在までの研究ヒストリー

修士課程1年	
2024年4月	研究計画に沿って研究開始。
5月	合議に関する数理モデルを構築し、エージェント・ベース・シミュレーションを実施。
8月	日本社会心理学会第65回大会 口頭発表。 2024年度北海道大学文学院共生の人文学プロジェクト(オンライン学会)採択。
12月	日本人間行動進化学会第17回大会 ポスター発表・若手発表賞受賞。
2025年1月	2024年度日本社会心理学会若手研究者奨励賞。
2月	個人判断実験実施。
3月	上記の結果をもとにエージェント・ベース・シミュレーションを実施。
修士課程2年	
2025年6月	卒業論文を基にした論文「認知的中心性の高いメンバーは正確な意思決定をするか?」が「心理学研究」に掲載。
7月	集団合議実験(第一実験)を開始し、11月まで継続。 日本財団HUMAIプログラム(奨励金A)採択。
9月	日本社会心理学会第66回大会 口頭発表。 2025年度北海道大学文学院共生の人文学プロジェクト(旅費支援)採択。
12月	日本人間行動進化学会第18回大会口頭発表。 科学技術融合振興財団2025年度補助金採択。
2026年2月	修士論文提出、博士後期課程入学試験。 「学術振興会特別研究員DC・PD申請書の書き方セミナー」話題提供。
3月	学術振興会特別研究員DC・PD申請書の書き方相談会 相談員。 学位「修士号(人間科学)」取得。
博士後期課程1年	
2026年4月	博士後期課程進学。 日本学術振興会特別研究員DC1採用。 北海道大学で集団合議実験(第二実験)実施。

修士1年目の2つの大きな受賞経験が「これからもやっていけるという自信になりました」。

竹西さんの研究には計量的・数理的アプローチが重要。画像は「正解が存在する課題に対し5人のエージェントが全員一致に至るまで合議を行う」シミュレーションの正解者数の推移をプロットしたもの。複数回の試行を重ねることで集団決定の安定性を分析する。

北大の社会科学実験研究センターでは約4000名の実験参加者プールを管理・運用しており、協力者集めがスムーズに実現。「集団実験が必要な研究者にとって理想的な環境です」。

「北海道の食はおいしい!鮮度抜群の魚やリキュール&ソフトクリームにエネルギーをもらっています」。

出張旅費や学振申請等の支援制度の活用方法を先輩たちに紹介。「私たち若手を応援してくれる文学院の組織的なバックアップのおかげで最前線の研究者と交流する機会を得ることができました」。

人間の文化を研究する「文」学院

『「文学院」と聞くと、文学作品などを読み解く場をイメージするかもしれません。しかし、「文化進化(Cultural Evolution)」研究が示すように、人間が作り出した言語や社会規範もまた、人類が築いてきた重要な文化です。「文」学院はそんな人間の「文」化全般を研究する場だと考えると、研究対象がより広がります』

※本項は2026年5月現在のデータで構成しています。

TOPICS 1

研究環境 一人ひとりの学びを応援！

在学生のための情報とアーカイブが充実 〈ウェブサイト〉 www.let.hokudai.ac.jp/



文学研究院・文学院・文学部のウェブサイトでは、大学院生や大学院を志す皆さんに役立つ最新情報や、アーカイブを充実させています。セミナー、大学院進学説明会、支援情報などを活用して、研究発表や進路選択に役立ててください。



▲文学研究院・文学院・文学部公式Xは、研究情報、学内行事など学生向け情報を中心に更新、緊急時の情報共有メディアとしても利用します。



研究情報を中心に発信している公式 Facebook もご覧ください。
<https://www.facebook.com/Hokudai.Humanities.HumanSciences/>

公式 Instagram
https://www.instagram.com/hu_bungaku/

文学院紹介動画「#北大#文学院#ほんもの」
<https://youtu.be/yGC6LR5d0m8>

人と情報の交差点エントランスホール



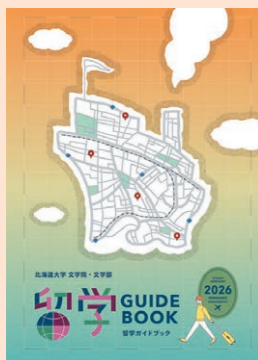
文学院・文学部のエントランスには、「書香の森」と名づけた書棚と展示棚を設置しています。各教員の研究の集大成とも言える著書を展示する他、企画展示や教員が自著を紹介する読書会も行います。

常に机が確保できる院生研究室



講座や研究室ごとに「院生研究室」を設置しており、ひとり一台の机で勉強できるよう十分な設備を整えています。なかには個人ロッカーや個人の本を置ける開放書棚がある部屋も。文学院内で腰を落ち着けて読書、思考、執筆ができると、院生に好評です。

きめ細やかな留学支援



文学院・文学部では、教務担当が国際交流に関わる業務、留学生受入、在学留学生の支援などを行っています。また、交換留学に関する情報提供、大学院生・学部生の交換留学の申請手続き支援、協定校への仲介などを行っています。



▲文学院・文学部生のための「留学ガイドブック2026」公式ウェブサイトにて公開中

若手研究者を応援！研究推進室



大学院生の旅費支援・校関係費支援の窓口、申請書の書き方セミナー等各種セミナーの企画実施のほか、リサーチ・アシスタント (RA) のアウトリーチ支援、若手研究者支援情報の提供など、大学院生やポストドクのみさんの研究活動をバックアップしています (p.05-p.07)。

国際担当教員
ラフェイ・ミシェル 教授 LA FAY Michelle
■研究分野
日本におけるプロテスタントキリスト教、内村鑑三

国際担当教員
小川 佐和子 准教授 OGAWA Sawako
■研究分野
映画史、表象文化論、ドイツ語圏の文化史

TOPICS 2

関連組織

文学研究院内センター

応用倫理・応用哲学研究教育センター

本センターの目的は、応用倫理、応用哲学、ジェンダー・セクシュアリティ、死生学に関する研究・教育を推進することにあります。2007年4月に「応用倫理研究教育センター」として設置され、応用倫理の研究教育に携わる、国立大学では初の常設機関として活動を開始しました。2008年度よりジェンダー・セクシュアリティに関する研究教育も活動範囲に加え、さらに2018年度には「応用倫理・応用哲学研究教育センター」へと改称し、「応用哲学」と「死生学」も研究領域に加え、現在に至っています。



北方研究教育センター

北方研究教育センターは、文学研究院が対象とする歴史、文化、言語、芸術、文学、考古、環境、地理、動物心理など広範な視点から「北方研究」を捉え、研究・教育を進めています。

対象地域は、北海道やロシア・スラブ圏をはじめ、北欧、北米、北極にも及び、さまざまな大学や研究機関との共同研究や交流の拠点となっています。また、雑誌『北方人文研究』の発刊、シンポジウムや研究会などの企画・運営を行っています。



学内共同施設

社会科学実験研究センター

社会科学実験研究センター (CERSS) は、先端的な社会科学実験を展開する日本唯一の専門機関であり、国内外の主要研究拠点と連携するハブとしての役割を担っています。将来を嘱望された研究者の受け皿としても機能しています。心理学・認知科学・脳科学と、経済学、法学、政治学を含む社会科学諸分野との接合を図ると同時に、当該分野における若手人材の育成、研究成果の国内外への発信を行い、実験社会科学の発展に寄与しています。



人間知・脳・AI研究教育センター

人間知・脳・AI研究教育センターは、新しい「人間知」の創成という理念のもと、数千年来の知の伝統を受け継ぐ人文社会科学と、急速に進展しつつある脳科学 (神経科学)・人工知能 (AI) の知が高度なレベルで融合する文理融合型研究・教育を行うセンターです。脳科学 (神経科学) と AI 研究の急速な進展により、旧来人文社会科学が扱ってきた「人間」への問いが新たな仕方です。本センターは、この挑戦に答え、文理の境界を超えた先端的研究のプラットフォームを作ることを目指します。国内外から最先端の研究者を招聘して行うサマースクール・ウィンタースクールを中心に、プログラムに所属する大学院生は刺激に満ちた共同研究に参画し、国内外の研究室・企業へのインターンシップを行うことができます。



学生生活

札幌の中心部に緑のキャンパス

北海道大学は札幌の中心部という恵まれた立地にあり、緑豊かなキャンパスが広がっています。交通網の要であるJR札幌駅からも徒歩圏にあり、通学にも便利です。大学周辺は学生街として発展しています。大学の関連施設は、約150年に及ぶ知の探求の歴史を伝える総合博物館や、市民の憩いの場としても親しまれている植物園、交流の場を創造するコンベンション施設やセミナーハウス、山小屋など。道外には東京オフィスがあり、出張や就活時の拠点として活用されています。留学希望者への情報提供、留学実現に向けての具体的な手続きの支援は、国際連携機構のリクルーティングオフィスが行っています。



大学寮や保育施設も利用可能

北海道大学には男女学部生と男子大学院生用^{ひいてきりょう}に恵庭寮、女子学部生と女子大学院生用には霜星寮^{しもせiryō}があります。他に札幌市内に公・私設寮が10カ所以上あり、北海道大学生協同組合では下宿・貸間・寮等の紹介も行っています。外国人留学生に対しては、4カ所の留学生用宿舎があります。また、学内には札幌市認可保育園「子どもの園」と事業所内保育所「とにも」の2カ所の保育施設があります（定員の空き状況により入所できない場合があります）。

課外活動・ボランティア活動

学生の自主活動として文化系53、体育会系69、その他1の公認学生団体があり、分野を超えた交流の場となっています。例年6月の大学祭をはじめ、学内外での体育大会やスポーツイベントもあります。ボランティア活動に関心がある方は「学生ボランティア活動相談室」の活用をおすすめします。

研究に集中できる経済支援

経済的理由により入学科、授業料の納付が困難な場合、入学科、授業料減免の制度を利用することができます。また、各種奨学金制度[※]や奨励金の機会もあり、研究に集中できるよう経済的に援助する各種支援制度も導入しています。他に大学院生を対象としたティーチング・アシスタント(TA)やティーチング・フェロー(TF)、リサーチ・アシスタント(RA)の制度があり、給与(謝金)を受けながら、教育や研究の補助的作業を通じて教育・研究のスキルを高めていくこともできます。博士後期課程学生向けに研究費と生活費相当額を支給するフェローシップ制度も拡充されています。

※参考:日本学生支援機構奨学金貸与月額(2025年度)

	修士課程	博士後期課程
第一種奨学金	50,000円または88,000円	80,000円または122,000円
第二種奨学金	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円のいずれか	

DATA

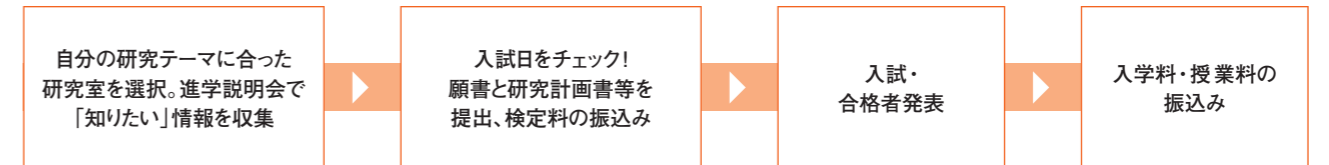
- ▶ 文学院「FAQよくある質問」→北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→[よくある質問] 入試から生活まで幅広いFAQ集
- ▶ 北海道大学「学生生活」北海道大学ウェブサイトTOP→[学生生活] さまざまな学生生活情報を網羅→<https://www.hokudai.ac.jp/gakusei/>

入試から入学まで

- 入試前に志望する研究室の教員や先輩にコンタクトを取り、研究テーマや方法、入試準備について十分な情報を集めておきましょう。オンラインで行う大学院進学説明会では研究環境の他にも研究計画書の書き方や学生生活など幅広い相談を受けています。
- 入学試験は、博士後期課程、修士課程ともに年2回(9月、1・2月)実施しています。出願に関する詳しい情報が記載された募集要項と過去の入試問題などは文学院のウェブサイトに掲載しています。



▲募集要項



2026年(令和8年)度実施の入試カレンダー

	2026年							2027年	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
オンライン進学説明会	19日 オンライン実施					13日 オンライン実施			
修士課程		7月15日～29日 インターネット出願登録期間 7月31日～8月7日 出願書類提出期間		28日 試験日	9日 合格発表		14日～25日 インターネット出願登録期間	4日～8日 出願書類提出期間 30日 試験日	18日 合格発表
博士後期課程		7月15日～29日 インターネット出願登録期間 7月31日～8月7日 出願書類提出期間		29日 試験日	9日 合格発表		14日～25日 インターネット出願登録期間	4日～8日 出願書類提出期間	4日 試験日 18日 合格発表

大学院入試情報 北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[入試情報]→大学院文学院入試情報

多忙な社会人に配慮した「長期履修制度」

主に時間的制約の多い社会人の修学に配慮したもので、申請条件を満たせば標準の修業年限より長い期間をかけて計画的な履修を認める制度です。詳細は、北大大学院文学院ウェブサイトTOP→[文学院]→[長期履修制度]

DATA

- ▶ 検定料:30,000円 入学科:282,000円 授業料:535,800円 (入学科・授業料は改定されることがあります。募集要項で事前にご確認ください) 授業料は前期、後期に分けて払います。また、減免制度、奨学金制度などがあります。
- ▶ 入学状況 https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/2025_hokudai-gaiyou.pdf#page=39
- ▶ 卒業・修了者数(学位授与数) https://www.hokudai.ac.jp/introduction/pdf/2025_hokudai-gaiyou.pdf#page=39

MEMO

- ▶ 研究生 特定の専門事項について研究を希望し、一定の条件を満たしている方を「研究生」として受け入れています。単位を修得したり学位を取得することはできません。
- ▶ 聴講生・科目等履修生 授業科目の聴講または履修を希望し、一定の条件を満たしている方を「聴講生」、「科目等履修生」として受け入れています。科目等履修生は学期末試験等に合格した場合、教授会の承認を経て、所定の単位を得ることができ、学位を取得することはできません。



文学院進学希望者向けのまとめ情報は、右のQRコードよりご覧いただけます <https://www.let.hokudai.ac.jp/general/gshhs-portal>

免許・資格

文学院在籍中に中高教員免許状の他、学芸員の資格、専門社会調査士資格、1級考古調査士資格が取得できます。詳しくは入学時に配られる「学生便覧」を参照し教務担当に相談してください。

●教育職員免許状一覧

- (1) 中学校教諭一種免許状 [国語、社会、英語]
- (2) 高等学校教諭一種免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]
- (3) 中学校教諭専修免許状 [国語、社会、英語]
- (4) 高等学校教諭専修免許状 [国語、地理歴史、公民、英語]

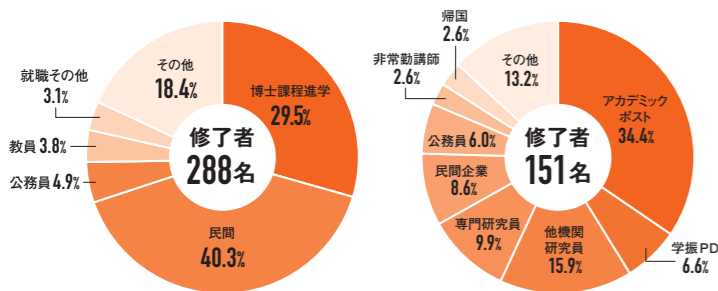
●学芸員 ●専門社会調査士 ●1級考古調査士

進路動向

〈修士課程〉過去3年間の進路

	修了者数	博士課程進学	就職	その他
令和5年度	98人	32人	51人	15人
令和6年度	96人	17人	57人	22人
令和7年度	94人	36人	42人	16人
過去3年間平均	—	29.5%	52.1%	18.4%

※その他の内訳：帰国、大学院等受験準備、研究生など。



修士課程 過去3年間の進路

博士後期課程 過去5年間の進路

〈博士後期課程〉過去5年間の進路

※日本学術振興会特別研究員や専門研究員を経て就職したケースも含む（修了後5年以内）。
※単位修得退学者の進路も含む。

●アカデミックポスト

愛知淑徳大学 学修教育支援センター 講師、大阪公立大学 文学研究科 講師、大阪大学 医学系研究科 特任助教、大阪大学 人文学研究科 講師、静岡県立大学 国際関係学部 准教授、就美大学 人文学部 講師、尚絅学院大学 総合人間科学系 講師、昭和医科大学 富士吉田教育学部 専任講師、筑波大学 人間系 助教、天使大学 看護栄養学部 講師、名古屋商科大学 経営学部 専任講師、名古屋大学 情報学研究所 特任助教、新潟県立大学 教授、新潟大学 人文学部 准教授、沼津工業高等専門学校 助教、梅花女子大学 文化表現学部 准教授、広島大学 人間社会科学部 専任講師、上廣応用倫理学講座 助教、福山大学 人間文化学部 講師、北海道大学 商学部 教授、北海道教育大学釧路校 講師、北海道大学 アンビシャス特別助教、北海道大学 外国語教育センター 特任准教授、北海道大学 教育イノベーション機構 特任助教、北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 特任助教、北海道大学 人間知・脳・AI研究教育センター 特任助教、北海道大学 文学研究科 准教授、北海道大学 文学研究科 講師、北海道大学 文学研究科 助教、北海道大学 文学研究科 准教授、北海道千歳リハビリテーション大学 共通教育 助教、北海道武蔵女子大学 経営学部 助教、北海道武蔵女子短期大学 英文学系 特任講師、三重大学 人文学部 (中国) 厦門大学 電影学院 助理教授、広東外語外貿大学 講師、貴州大学 哲学学院 講師、湖北民族大学 外国語学院 講師、四川外国语学院 日本語学院、四川師範大学、西安外国语学院 日本文化経済学院 講師、浙江師範大学 心理学院 講師、汕頭大学 法学院 講師、中国地質大学、北京第二外国语学院 日本語学院 講師、遼寧大学 哲学部 講師 (スペイン) サラマンカ大学 准教授

●日本学術振興会特別研究員(学振PD)

金沢大学、京都大学、慶應義塾大学、筑波大学、東京大学、東北大学

●民間企業

IGG JAPAN、国分グループ、シン技術コンサル、神宮前麻酔クリニック、スイッチメディア、TETSUGAKU、日東製薬、日本電通電話 社会情報研究所、パーソナルプロセス&テクノロジー、PwC コンサルティング、VISHU、留萌興産

●公務員

札幌丘珠高校、札幌育成園、鹿追町立神田日勝記念美術館、城陽市歴史民俗資料館、当別町、徳島県立博物館、内閣府、広島県庁、北海道教育庁

●博士研究員

玉川大学脳科学研究科、東京大学農学生命科学研究科、南山大学社会倫理研究所、広島大学 人間社会科学部 心理学研究科、北海道大学 アイヌ・先住民研究センター、北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター、北海道大学 人間知・脳・AI研究教育センター、北海道大学 文学研究科、北海道大学 北方研究教育センター、北海道大学 メディア・コミュニケーション研究科、北海道立総合研究機構、理化学研究所 脳神経科学研究センター (英国) サセックス大学 (台湾) 国立中興大学 人文社会科学高等研究センター (中国) 海南大学、西南大学 漢言語文文献研究所、香港バプテスト大学 (フィリピン) フィリピン国立人類学博物館

●文学研究科専門研究員

●その他

イラストレーター、神主、京都大学 教務補佐員、札幌大学 職員、住職、他大学院進学、玉川大学 職員、通訳、俳人、北海道大学 職員、帰国

●北海道大学キャリアデザインセンター

学生とのコミュニケーションを大切にしながら就職活動をバックアップ。就職相談や就活指導、就職情報の配信ほか、公務員受験や教員採用試験も応援しています。

修士課程修了者の就職先 過去3年間

官公庁	情報通信業	学術研究、専門・技術サービス業	サービス業
愛媛県久万高原町地域おこし協力隊 外務省 総務省 北海道庁 松本市役所 夕張市役所 労働政策研究・研修機構	アイヴィス 朝日サービス アストロン アドソル日進 インターネットイニシアティブ エヌシーアイ総合システム 京都新聞社 共同通信社 クリプトン・フューチャー・メディア KDDI K-BIT JCOM 情報技術開発 小学館集英社プロダクション cinra Speee ダイテック 中日新聞社 TIS TNLメディアジーン デジタルデータソリューション 東映ビデオ 日鉄ソリューションズ北海道 日本放送協会(NHK) 日本アイ・ビー・エムデジタルサービス 日本電気航空宇宙システム 東日本電信電話 フジテレビジョン ブックスボックス フレクト ベネッセコーポレーション 北海道新聞社 毎日新聞社 ミックウェア モンスタースタジオ	アクセンチュア 小樽市総合博物館 日本国際協力センター(JICE) 札幌市芸術文化財団 さっぽろ青少年女性活動協会 自営業(デザイナー) 電通 日本総合研究所 PIGNUS 日高町立門別図書館郷土資料館 平取町立二風谷アイヌ文化博物館 北海道大学総合博物館 北海道大学大学院医学研究科 北海道博物館 北海道立文学館 北海道立北方民族博物館 マクロミル	THK TDK TOPPAN 日本写真印刷コミュニケーションズ 日立産機システム 華勤技術(中国) 三井ハイテック ルビシア レゾナック
建設業	運輸業・郵便業	金融・保険	不動産
共同エンジニアリング 世紀東急工業	日本郵便 北海道エアポート	農林中央金庫 PayPay銀行	ウインドワード JWB 都市再生機構
卸売業・小売業	農業・林業	医療	製造業
自営業(茶葉の販売等) シロ トゥモローランド 東急百貨店 良品計画	雪印種苗	中村記念病院	アドバンテスト 岩塚製菓 SUBARU セイコーエプソン

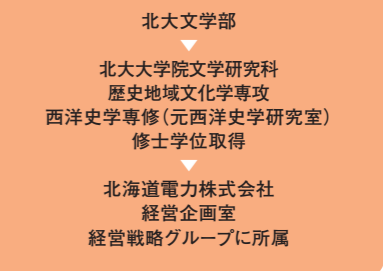
修士課程 修了者の声

調べ、読み解き、論理的に表現する経験が 経営戦略立案の土台に

映画「グラディエーター」等を通じて古代ローマ史に関心を持ち、西洋史学研究室を選択しました。学部時代に「古代ローマの奴隷制」研究に必要な英語や古代ラテン語等の語学力を高め、大学院時代の2年間では研究内容を深めました。大学院で得た学びは、研究の中で計画的にPDCAサイクルを回して、課題を見抜き、その解決に向けたプロセスを反復することで身につけた論理的な思考力と実践力です。現在は当社の更なる企業成長の実現や北海道経済の更なる成長・発展への貢献に向けて、当社グループ経営目標の設定・管理および経営分析等の業務を担当して

おり、大学院で培われたこれらの力が大いに役立っています。さらに、インプット力とアウトプット力も鍛えられました。経年劣化により欠損が多い古代ラテン語資料を前後の文脈等から類推し読み解いた経験や、修士論文をロジカルに組み立てた経験が、社内外に向けて資料を作成し、説明を行う場面等で活かされています。皆さんも研究職と民間企業就職のいずれを選択するかを問わず、人生を送るうえで譲れないポイント・大事にしたいポイントを常に意識し、実りの多い学生生活を過ごしてください。

北海道電力株式会社 経営企画室 経営戦略グループ
前田 悠太 さん [2013年度修了]



※2019年4月の改組により、文学研究科は文学部に、人間システム科学専攻は人間科学専攻に、心理システム科学専修は心理学研究室になりました。

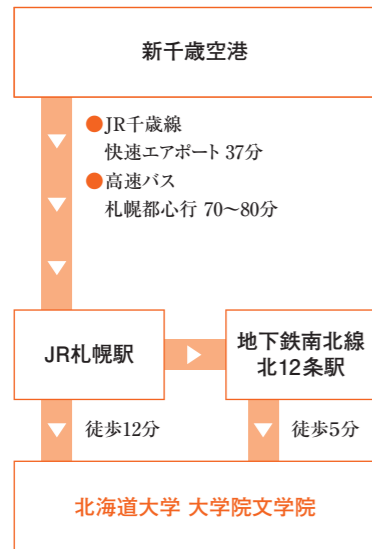
その他の修了者の声は、右のQRコードよりご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/interview/category/mc-graduate>



その他の修了者の声は、右のQRコードよりご覧いただけます。 <https://www.let.hokudai.ac.jp/interview/category/dc-graduate>



Access



文学院周辺地図



国立大学法人
北海道大学 大学院文学院

〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目

連絡先 文学事務部教務担当

電話 011-706-3005 / 011-706-3004 (直通)

URL <https://www.let.hokudai.ac.jp/>

Graduate School of Humanities and Human Sciences,
Hokkaido University

Kita 10, Nishi 7, Kita-ku, Sapporo, 060-0810 Japan

- 制作・発行 北海道大学 大学院文学研究院
- 編集担当 林寺正俊・松嶋明男・川崎公平・伍嘉誠 (広報誌専門部会)
飯塚理恵・森岡和子 (研究推進室)

- 企画・編集 株式会社スペースタイム
- デザイン 株式会社デクスチャー
- 教員紹介記事構成 佐藤優子 (p16、p20、p27 除く)

■本誌に掲載されている情報は2026年6月現在のものです。
■本誌の無断複製(コピー)・転載は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

